

朝 日 町
男女共同参画に関する
町民アンケート

調査結果報告書

令和3年9月

- 目次 -

I. 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査対象及び調査方法	1
3. 調査票の回収方法	1
4. 設問構成	1
5. 集計方法	1
II. 調査結果	2
1. 回答者自身について	2
1-1 性別	2
1-2 年齢	3
1-3 家族構成	3
1-4 地区	4
1-5 結婚	4
1-6 職業	5
2. 男女平等について	6
2-1 各分野での男女の地位	6
2-2 各分野で男女が平等であるために重要なこと	8
2-3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について	9
3. 家庭生活について	10
3-1 家庭生活と自分の活動で「現実」「希望」「配偶者・パートナーに望むもの」	10
3-2 家事の分担の状況	12
4. 地域活動・社会活動等について	15
4-1 地域活動・社会活動の有無	15
4-2 地域活動における男女の役割や仕組み、考え方	16
4-3 災害時の避難所運営における、必要だと思ふ取り組み	17
5. 職業生活・女性の活躍について	18
5-1 女性の職業へのかかわり方	18
5-2 女性の働きやすさについて	19
5-3 女性は働きやすくないと思う理由	20
5-4 育児休暇・介護休暇制度の認知状況、取得状況	21
5-5 勤務先の男女平等について	23
5-6 男女平等だと思わない理由	24
5-7 同じ職場に働き続けるために必要なこと	25
5-8 各分野での女性リーダーについて	26
6. 女性の人権、DV（ドメスティック・バイオレンス：配偶者や恋人などからの暴力） などの男女間の暴力について	27
6-1 DV防止法の認知度	27
6-2 DV発見時の通報について	28

6-3 DV経験	29
6-4 DVの相談先	31
6-5 DVを相談しなかった理由	32
6-6 DVの相談窓口等の認知度	33
6-7 DVの相談窓口等で配慮してほしいこと	34
7. 性のあり方の多様性について	35
7-1 自分の性別についての悩み	35
7-2 言葉の認知度	36
7-3 性的少数者が暮らしやすい社会にするための意識啓発・支援.....	38
8. 男女共同参画社会について	39
8-1 男女共同参画社会の現状（10年前と比較して）	39
8-2 朝日町が力を入れていくべきこと	41

I. 調査概要

1. 調査の目的

朝日町では、平成 23 年度に「朝日町男女共同参画基本計画」を策定し、町・町民・事業所が連携・協働して男女共同参画社会の実現に向けて、さまざまな取り組みを進めています。

このたび、計画の見直しにあたり、町民の皆様の男女共同参画社会に対するお考えやご意見、実情を幅広くお伺いし、計画に反映するため、男女共同参画に関するアンケート調査を行うこととしました。

2. 調査対象及び調査方法

- ①調査地域：朝日町内
- ②調査対象：朝日町内の満 18 歳以上の男女
- ③配布数：950 人
- ④標本抽出方法：住民基本台帳から無作為抽出
- ⑤調査期間：令和 3 年 7 月 20 日～8 月 10 日
- ⑥調査方法：郵送配布・郵送回収

3. 調査票の回収方法

配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
950	381	380	40.0%
		性別 内訳※	男：179 女：199

※無回答があるため、合計は一致しません。

4. 設問構成

- ・回答者自身について
- ・男女平等について
- ・家庭生活について
- ・地域活動・社会活動等について
- ・職業生活・女性の活躍について
- ・女性の人権、DVなどの男女間の暴力について
- ・性のあり方について
- ・男女共同参画社会について

5. 集計方法

- ・グラフ・表中の「n」はアンケートの回収数を示しています。
- ・比率はすべて百分率(%)で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しています。従って、合計が100.0%にならない場合もあります。
- ・複数回答の場合、回答の合計比率が100.0%を超える場合があります。
- ・グラフ・表として示したもののうち、回答数が0の場合は表示を省略しています。また、選択肢の見出しを簡略化してある場合もあります。
- ・クロス集計表で着目している数値は必ずしも最も高い値ではありません。全体の値を基準に数値の開きが+と-で大きいものを選択して検証しています。

II. 調査結果

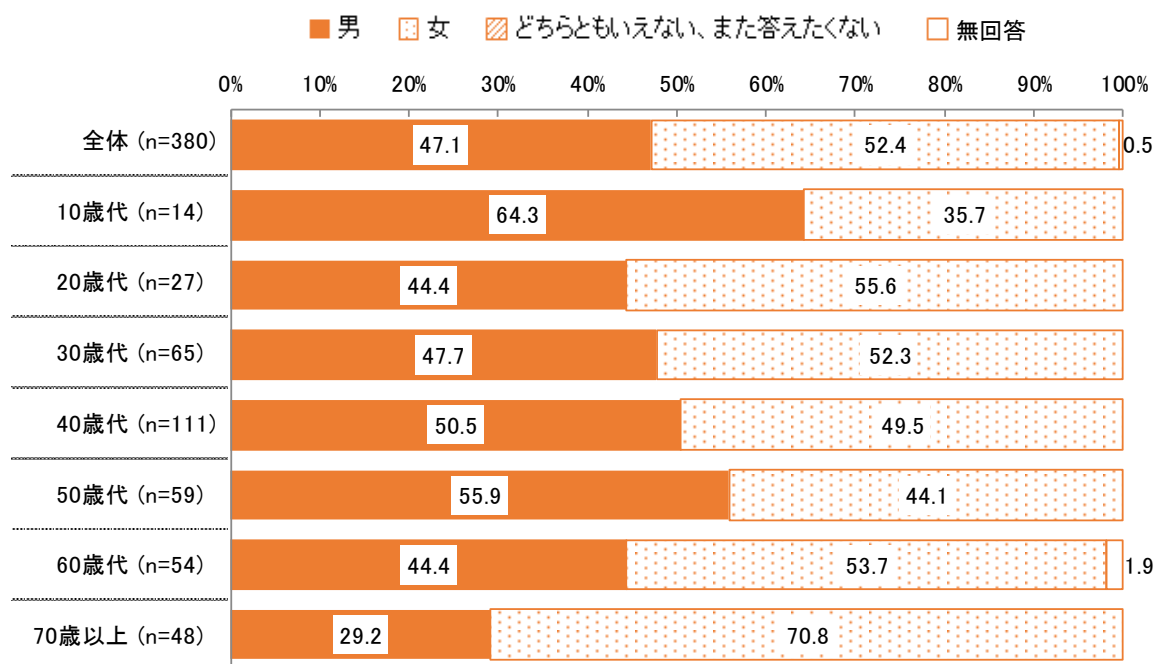
1. 回答者自身について

1-1 性別

F1. あなたの性別はどちらですか。(〇は1つ)

「男性」が47.1%、「女性」が52.4%

図表1-1 性別



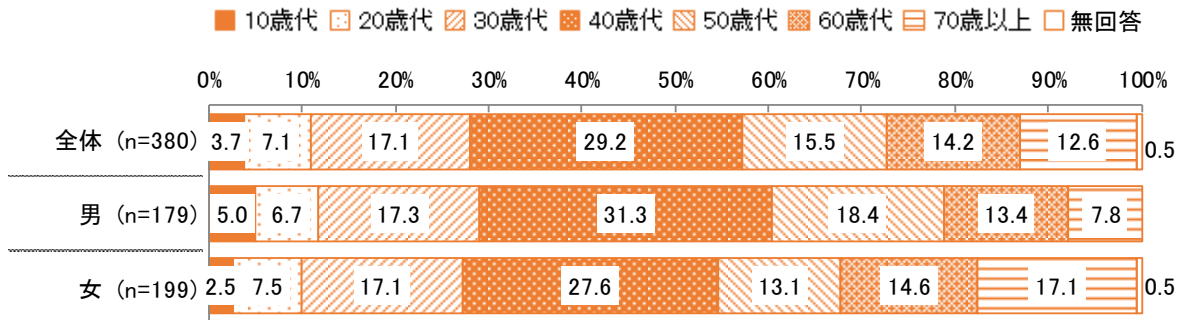
- 「男性」が47.1%、「女性」が52.4%となっている
- 年代別で見ると、『70歳以上』では「女性」が約7割を占め多くなっている。

1-2 年齢

F 2. あなたの年齢をお答えください。(令和3年7月1日現在)(○は1つ)

「40歳代」が29.2%で最多、次いで「30歳代」「50歳代」と続く

図表1-2 年齢



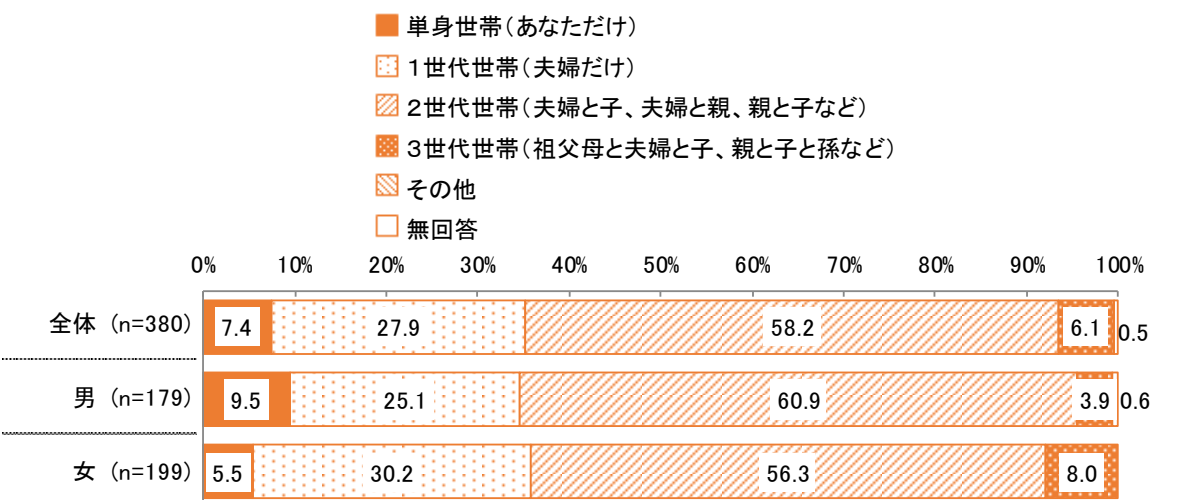
➤ 「40歳代」(29.2%)が最も多く、次いで「30歳代」(17.1%)、「50歳代」(15.5%)となっている。

1-3 家族構成

F 3. あなたが現在生活しているご家庭の家族構成をお答えください。(○は1つ)

「2世代世帯」が58.2%で最多、次いで「1世代世帯」が27.9%

図表1-3 家族構成



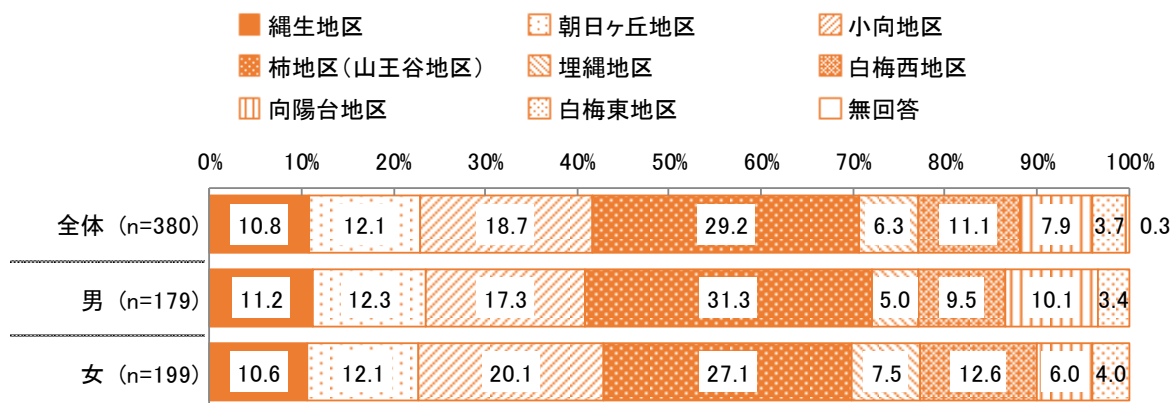
➤ 「2世代世帯(夫婦と子、夫婦と親、親と子など)」(58.2%)が最も多く、次いで「1世代世帯(夫婦だけ)」(27.9%)、「単身世帯(あなただけ)」(7.4%)となっている。

1-4 地区

F 4. あなたがお住まいの地区をお答えください。(○は1つ)

「柿地区(山王谷地区)」が29.2%で最多、次いで「小向地区」が18.7%

図表1-4 地区



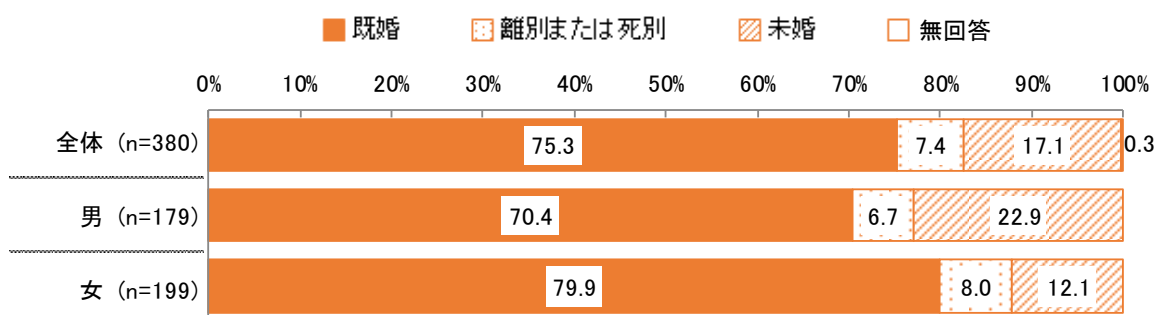
➤ 「柿地区(山王谷地区)」(29.2%)が最も多く、次いで「小向地区」(18.7%)、「朝日ヶ丘地区」(12.1%)となっている。

1-5 結婚

F 5. あなたは結婚(事実婚等も含みます)していますか。(○は1つ)

「既婚」が75.3%で最多、「未婚」は17.1%

図表1-5 結婚



➤ 「既婚」(75.3%)が最も多く、次いで「未婚」(17.1%)、「離別または死別」(7.4%)となっている。
 ➤ 男女別で見ると、「未婚」は“男性”のほうが“女性”より10.8ポイント上回っている。

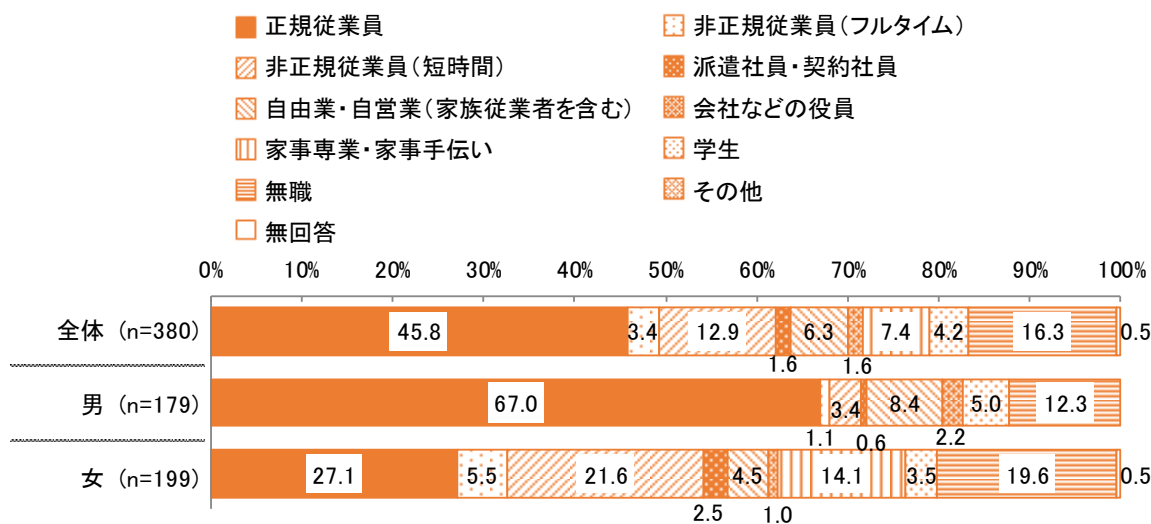
1-6 職業

F 6. あなたとあなたの配偶者（事実婚等のパートナーも含みます）の現在の職業は、次のうちどれですか。配偶者がいない方は、ご自身の欄だけご記入ください。（それぞれ〇は1つ）

全体で見ると「正規従業員」が最も多く、次いで「無職」、「非正規従業員」と続く

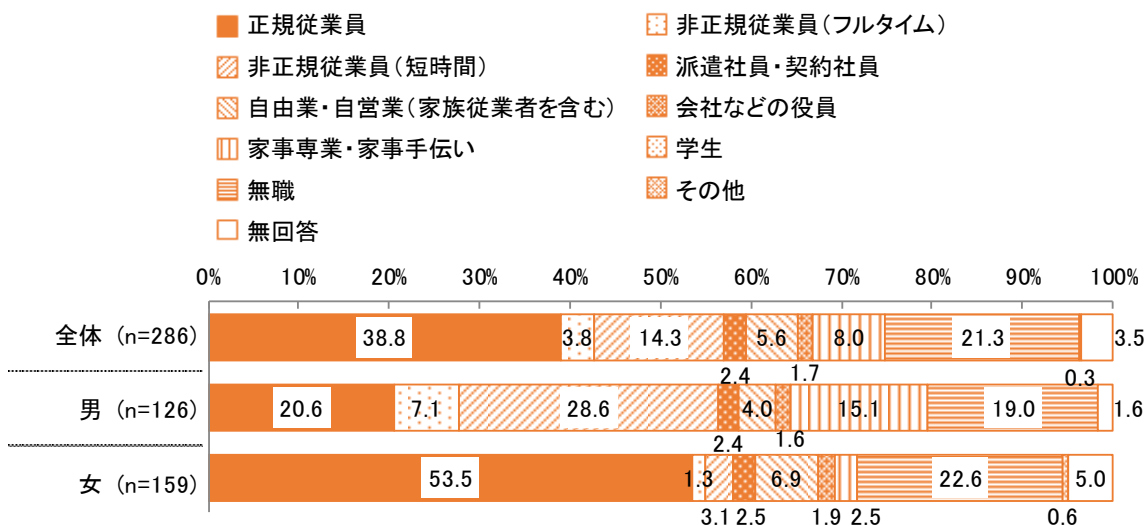
(a) ご自身の職業

図表 1-6 ご自身の職業



(b) 配偶者の職業

図表 1-7 配偶者の職業



- 全体で見ると、ご自身の職業・配偶者の職業どちらも「正規従業員」が最も多く、次いで「無職」、「非正規従業員(短時間)」となっている。
- 男女別で見ると、ご自身の職業では、「正規従業員」は“男性”が 67.0%と多く、“女性”より 39.9 ポイント上回り、配偶者の職業では“女性”が 53.5%となっており、“男性”よりも 32.9 ポイント上回っている。

2. 男女平等について

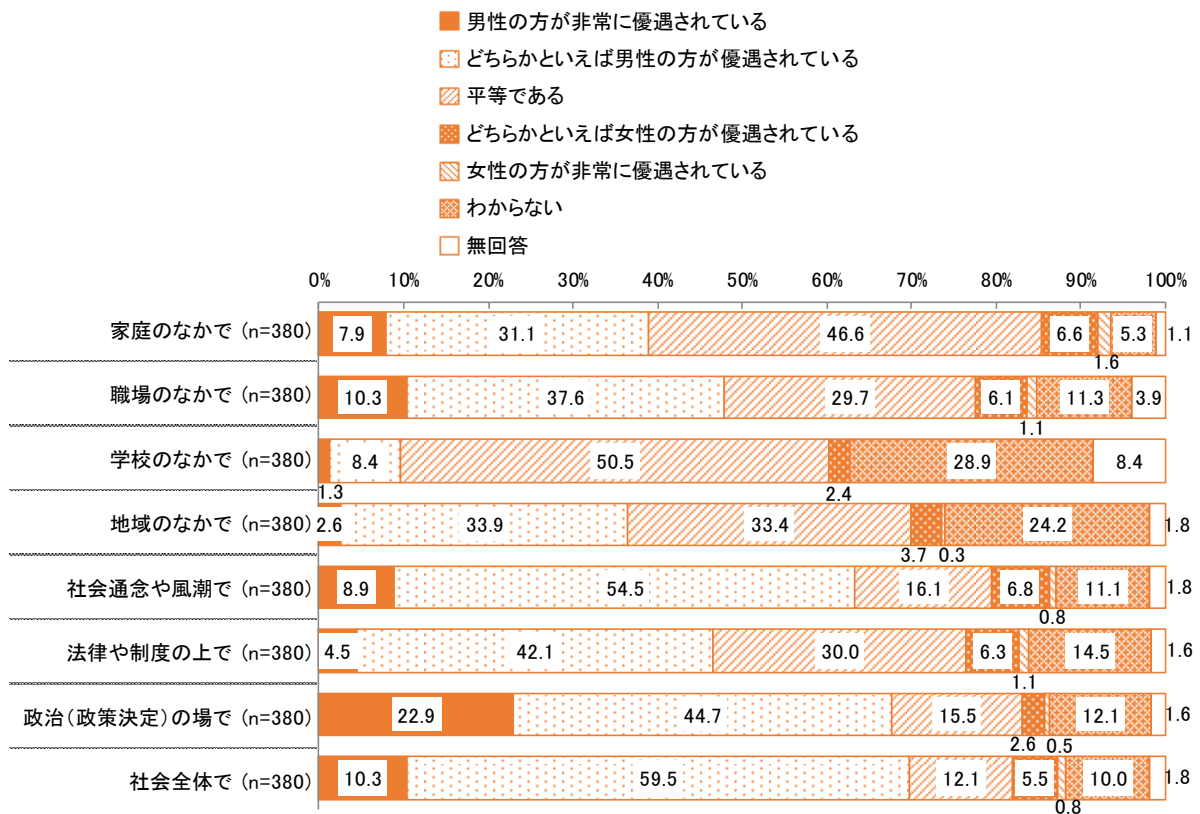
2-1 各分野での男女の地位

問1. あなたは、次にあげるA～Hの分野において男女の地位が平等になっていると思いますか。(A～Hのそれぞれ〇は1つ)

(a) 全体

『社会通念や風潮で』、『政治の場で』、『社会全体で』では「平等である」が10%台

図表 2-1 各分野での男女の地位

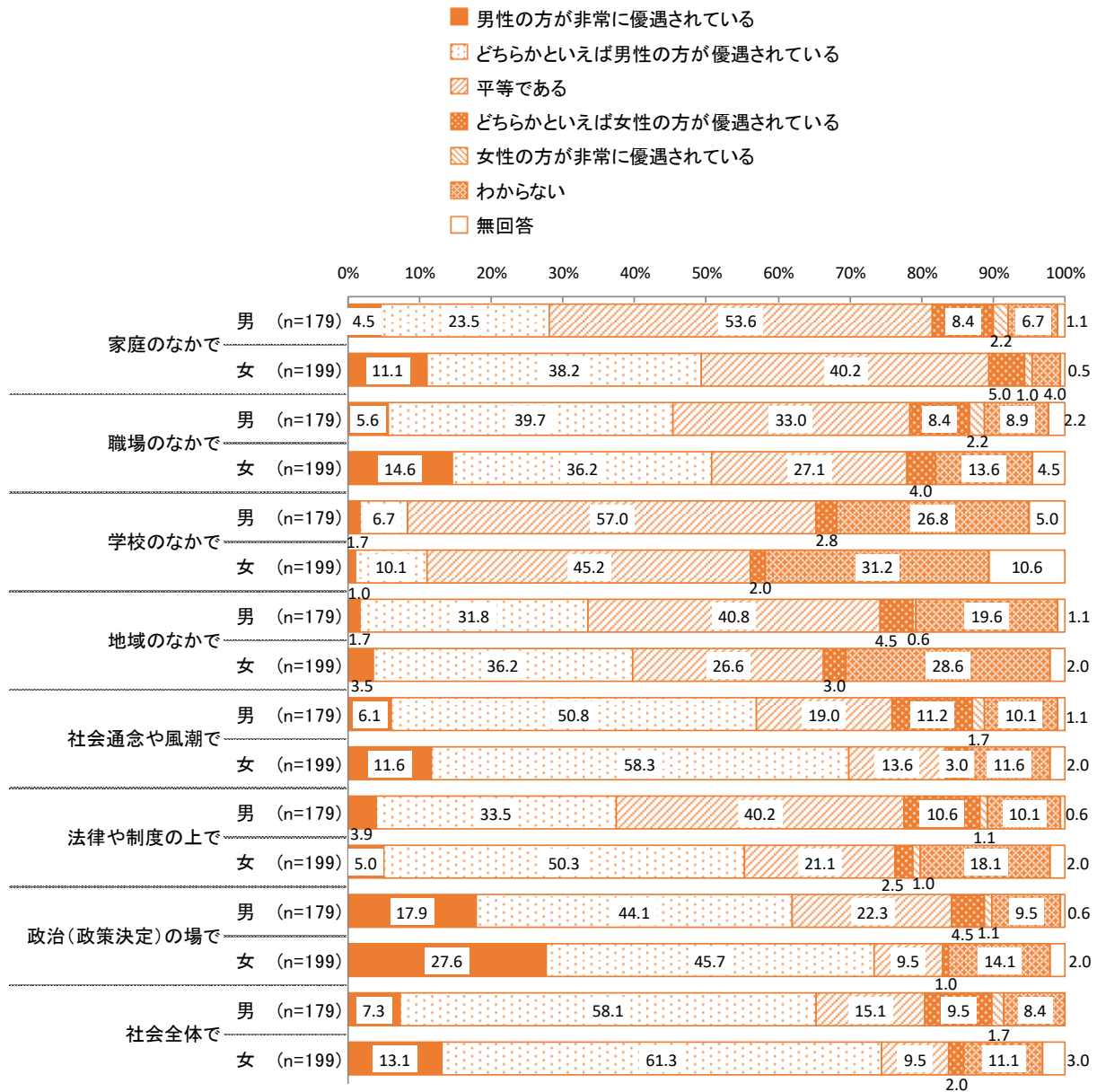


- 「平等である」との認識は、『学校のなかで』が 50.5%、『家庭のなかで』が 46.6%と多くみられる。
- 『社会通念や風潮で』、『政治(政策決定)の場で』、『社会全体で』では「平等である」が 10%台にとどまっている。
- 『政治(政策決定)の場で』では「男性の方が非常に優遇されている」が 22.9%と多く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と合わせると約7割を占めている。

(b) 男女別

いずれの項目も“男性”のほうが“女性”よりも「平等である」と認識している

図表 2-2 各分野での男女の地位（男女別）



- 男女別に見ると、いずれの項目についても“男性”のほうが“女性”よりも「平等である」と認識している。
- いずれの項目についても“女性”のほうが“男性”よりも『男性が優遇されている*』と認識しており、特に男女の間で認識の差が大きいものは、『家庭のなかで』が 21.3 ポイント、『法律や制度の上で』が 17.9 ポイント、『社会通念や風潮で』が 13.0 ポイント、“女性”の方が“男性”より上回っている。

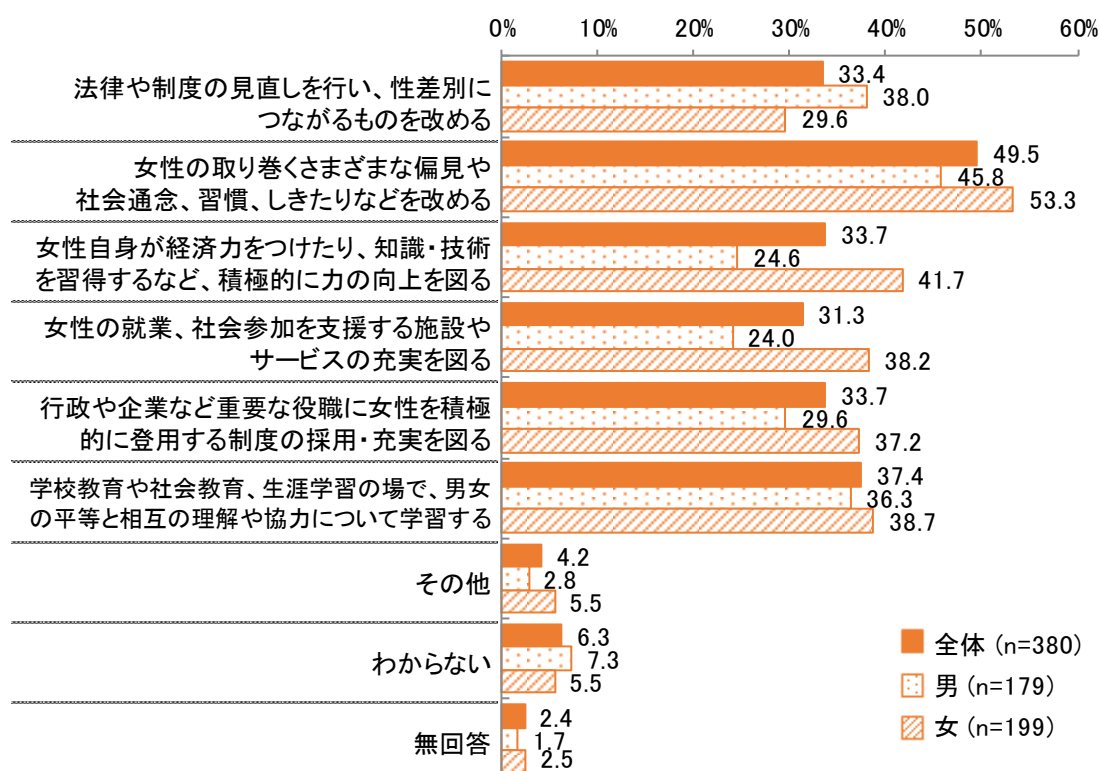
*『男性が優遇されている』は「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計

2-2 各分野で男女が平等であるために重要なこと

問2. あなたは、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには何が重要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「女性の取り巻くさまざまな偏見や社会通念、習慣、しきたりなどを改める」が約5割で最多

図表 2-3 各分野で男女が平等であるために重要なこと



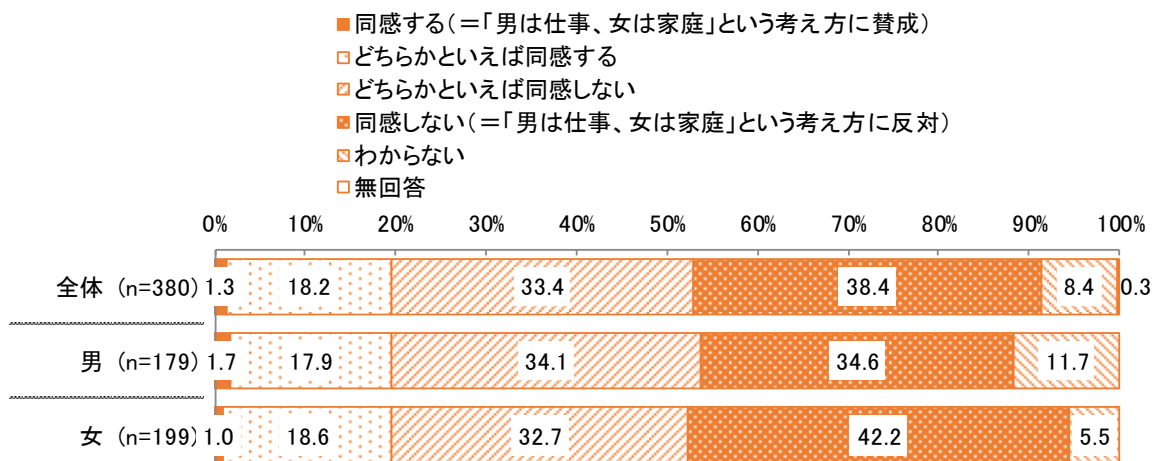
- 「女性の取り巻くさまざまな偏見や社会通念、習慣、しきたりなどを改める」(49.5%)が最も多く、次いで「学校教育や社会教育、生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力について学習する」(37.4%)、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図る」、「行政や企業など重要な役職に女性を積極的に登用する制度の採用・充実を図る」(33.7%)、「法律や制度の見直しを行い、性差別につながるものを改める」(33.4%)、となっている。
- 男女別に見ると、「女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図る」は“女性”が 41.7%となっており “男性”より 17.1 ポイント多く、また「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る」は 38.2%となっており、“男性”より 14.2 ポイント上回っている。

2-3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

問3. 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはごどう思いますか。(○は1つ)

「同感しない (= 「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対)」が 38.4%で最多

図表2-4 「男は仕事、女は家庭」という考え方について



- 「同感しない(=「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対)」(38.4%)が最も多く、次いで「どちらかといえば同感しない」(33.4%)、「どちらかといえば同感する」(18.2%)となっている。
- 男女別に見ると、「同感しない(=「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対)」は“女性”が42.2%と多くなっており、“男性”より7.6ポイント上回っている。

3. 家庭生活について

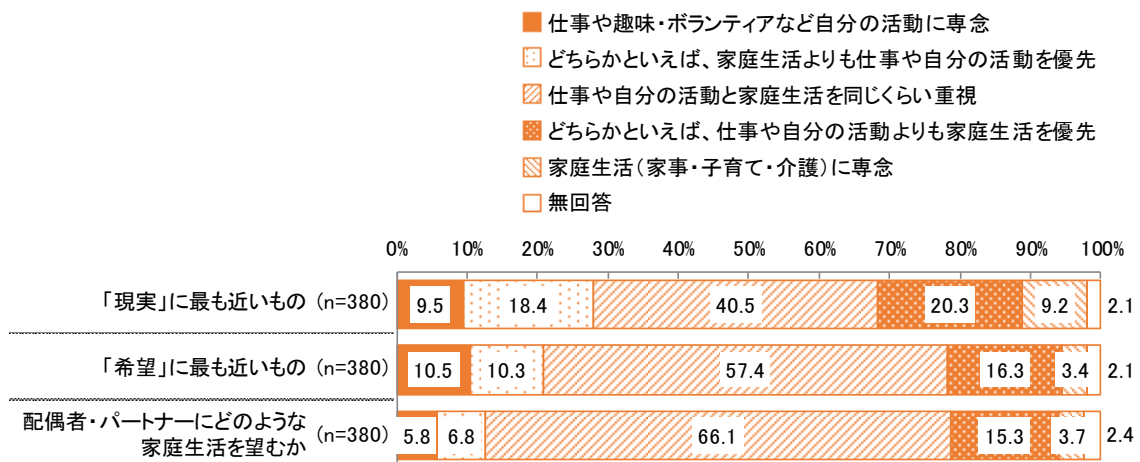
3-1 家庭生活と自分の活動で「現実」「希望」「配偶者・パートナーに望むもの」

問4-1. あなたの「現実」に最も近いものはどれですか。(○は1つ)
 問4-2. あなたの「希望」に最も近いものはどれですか。(○は1つ)
 問4-3. 配偶者・パートナーにどのような家庭生活を望みますか。未婚・既婚にかかわらずお答えください。配偶者・パートナーへの希望に最も近いものはどれですか。(○は1つ)

(a) 全体

「仕事や自分の活動と家庭生活を同じくらい重視」は『希望』が『現実』を多く上回る

図表3-1 家庭生活についての希望・現実

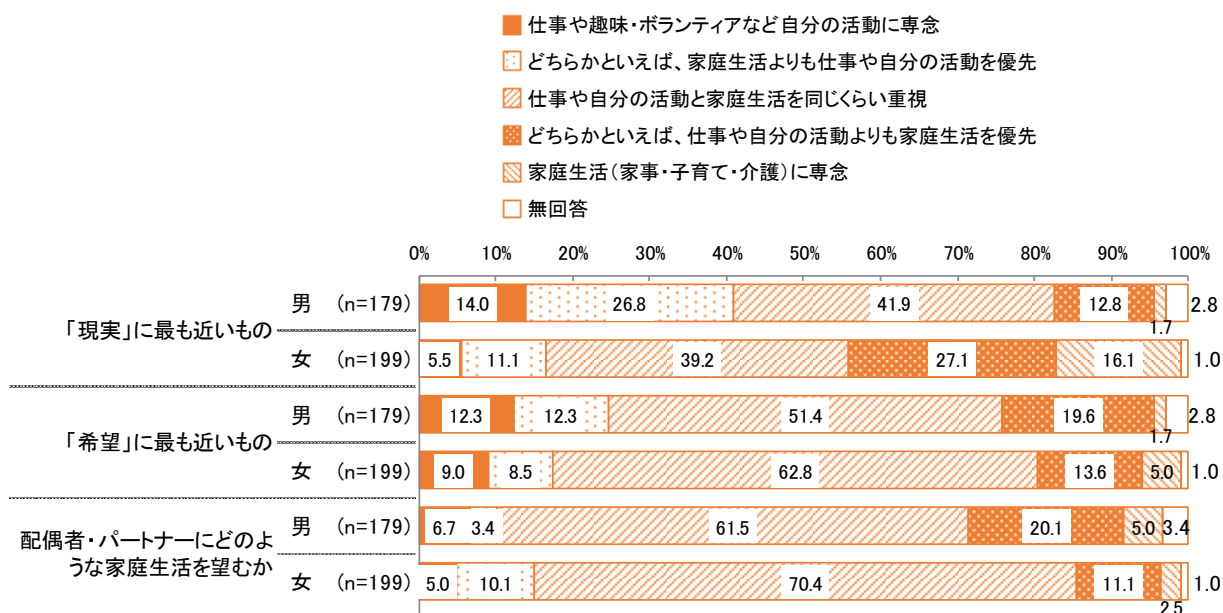


- いずれの項目も「仕事や自分の活動と家庭生活を同じくらい重視」が最も多く、次いで「どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先」、「仕事や趣味・ボランティアなど自分の活動に専念」となっている。
- 「仕事や自分の活動と家庭生活を同じくらい重視」は『希望』が57.4%で、『現実』よりも16.9ポイント上回っている。
- 『配偶者・パートナーにどのような家庭生活を望むか』については、「仕事や自分の活動と家庭生活を同じくらい重視」が66.1%と多くなっている。

(b) 男女別

『配偶者・パートナーにどのような家庭生活を望むか』において
「仕事や自分の活動と家庭生活を同じくらい重視」は“女性”で約7割を占める

図表 3-2 家庭生活についての希望・現実（男女別）



- 男女別に見ると、『現実』における「どちらかといえば、家庭生活よりも仕事や自分の活動を優先」は“男性”が26.8%となっており、“女性”より15.7ポイント上回っている。
- 『現実』における「どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先」は“女性”が27.1%となっており“男性”より14.3ポイント上回っており、また「家庭生活(家事・子育て・介護)に専念」においても“女性”が16.1%で“男性”より14.4ポイント上回っている。
- 『希望』のほうが『現実』よりも大きく上回っているのは男女とも同じで「仕事や自分の活動と家庭生活を同じくらい重視」となっており、男性で9.5ポイント、女性では23.6ポイント『希望』が上回っている。
- 『配偶者・パートナーにどのような家庭生活を望むか』については、「どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先」は“男性”のほうが“女性”より9.0ポイント上回っており、反対に“女性”のほうが“男性”より上回っているものは「仕事や自分の活動と家庭生活を同じくらい重視」で8.9ポイントの差となっている。

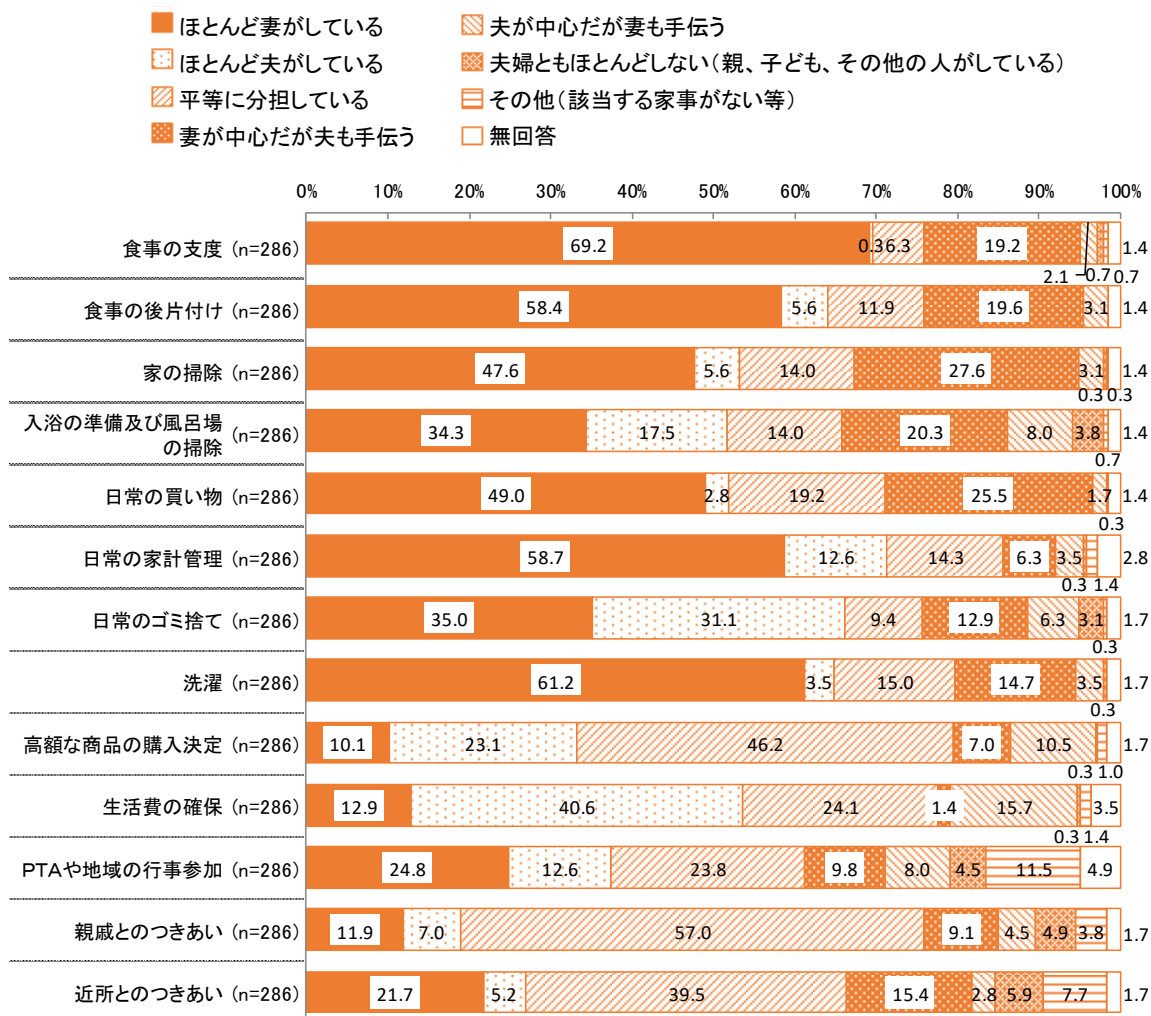
3-2 家事の分担の状況

【現在、配偶者（事実婚等を含む）がいる方にお聞きします。】
 問5. あなたの家庭では、A～Mのそれぞれについて、主に誰が分担していますか。

(a) 全体

「ほとんど妻がしている」で『食事の支度』が約7割、『洗濯』が約6割

図表3-3 家事の分担の状況

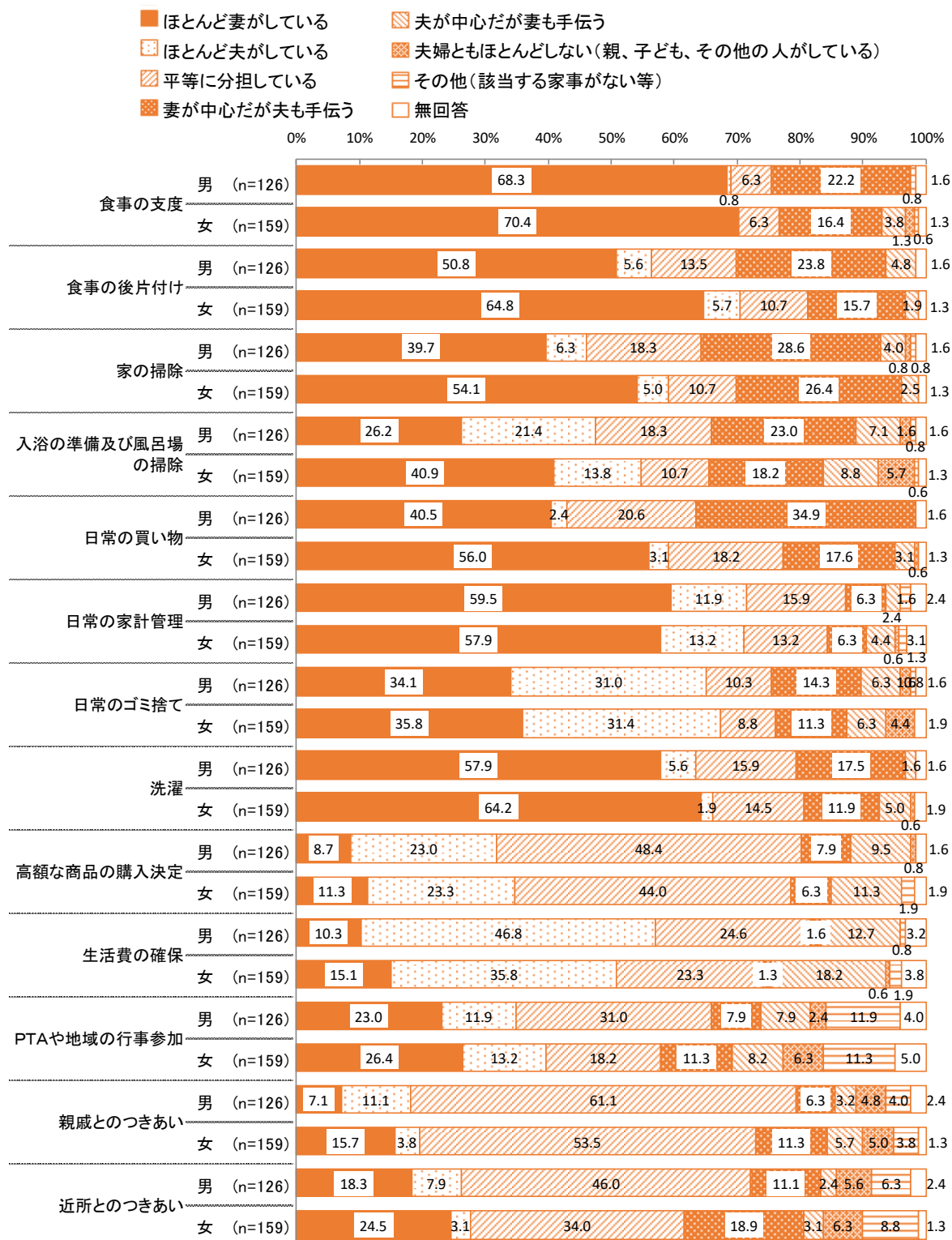


- 「ほとんど妻がしている」で多いものは、『食事の支度』(69.2%)、『洗濯』(61.2%)、『日常の家計管理』(58.7%)、『食事の後片付け』(58.4%)となっている。
- 「ほとんど夫がしている」で多いものは、『生活費の確保』(40.6%)、『日常のゴミ捨て』(31.1%)となっている。
- 「妻が中心だが夫も手伝う」で多いものは、『家の掃除』(27.6%)、『日常の買い物』(25.5%)、『入浴の準備及び風呂場の掃除』(20.3%)となっている。
- 「平等に分担している」で多いものは、『親戚とのつきあい』(57.0%)、『高額な商品の購入決定』(46.2%)、『近所とのつきあい』(39.5%)となっている。

(b) 男女別

『日常の買い物』で男女の認識の差が大きい

図表 3-4 家事の分担の状況（男女別）



-
- 男女別に見ると、「平等に分担している」において、いずれも“男性”のほうが“女性”よりも多く、『PTAや地域の行事参加』で12.8ポイント、『近所とのつきあい』で12.0ポイントの差がある。
 - “男性”のほうが“女性”より大きく上回っている項目は、「妻が中心だが夫も手伝う」における『日常の買い物』で17.3ポイントの差がある。
 - “女性”のほうが“男性”より大きく上回っている項目は、「ほとんど妻がしている」における『日常の買い物』で15.5ポイント、『入浴の準備及び風呂場の掃除』で14.7ポイント、『家の掃除』で14.4ポイント、『食事の後片付け』で14.0ポイントの差がある。
-

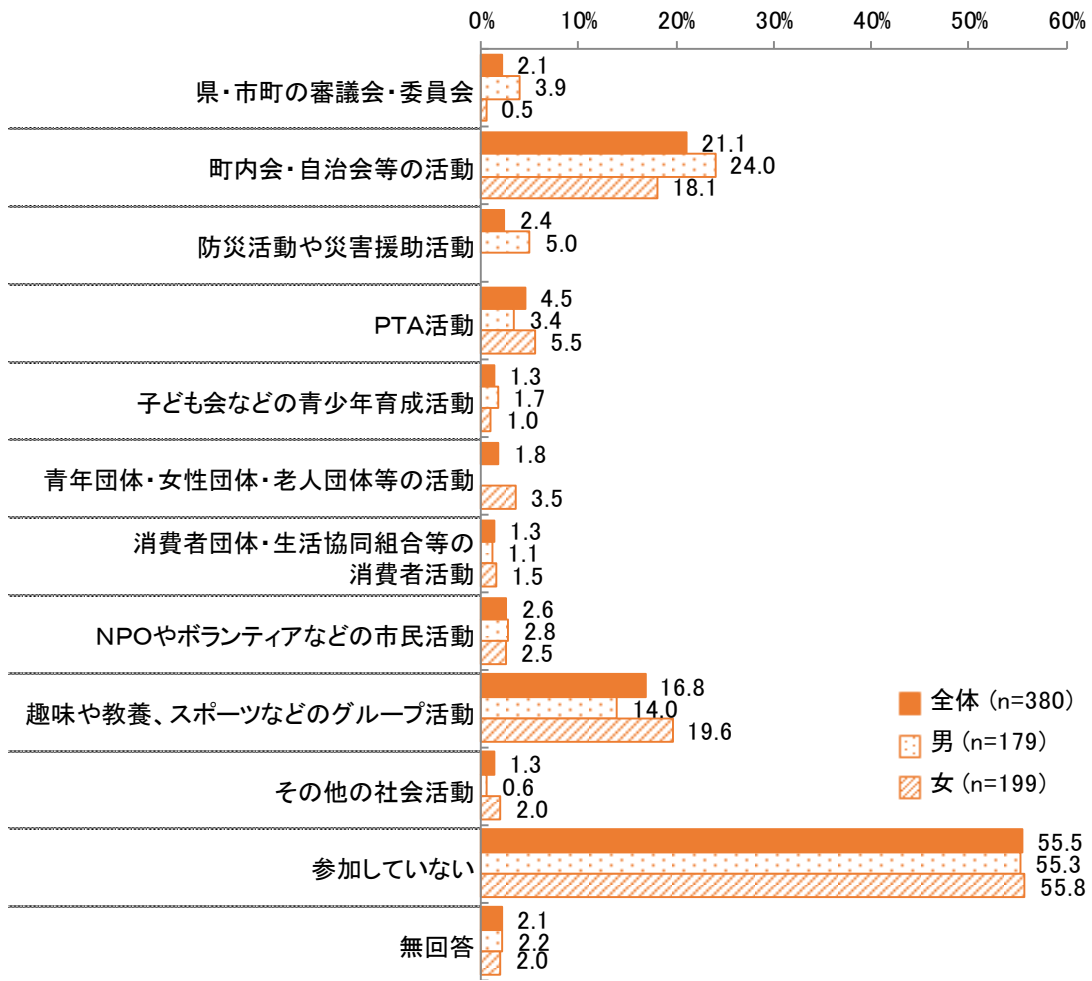
4. 地域活動・社会活動等について

4-1 地域活動・社会活動の有無

問6. あなたは次のような活動をしていますか。(〇はいくつでも)

「参加していない」が55.5%で最多

図表4-1 地域活動・社会活動の有無



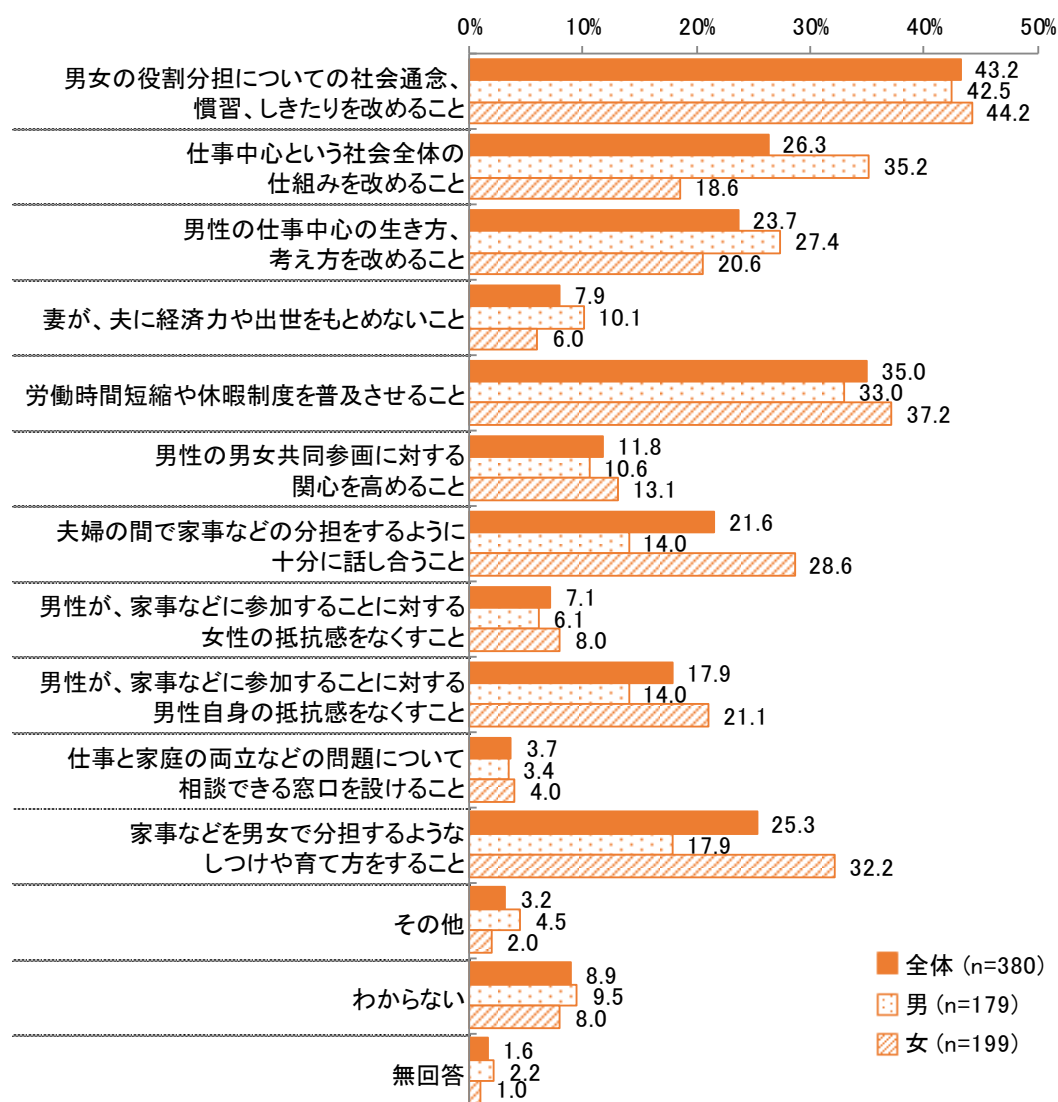
- 「参加していない」(55.5%)が最も多く、次いで「町内会・自治会等の活動」(21.1%)、「趣味や教養、スポーツなどのグループ活動」(16.8%)となっている。
- 男女別に見ると、「町内会・自治会等の活動」は“男性”が24.0%となっており“女性”より5.9ポイント上回っている。
- 「趣味や教養、スポーツなどのグループ活動」は“女性”が19.6%となっており“男性”より5.6ポイント上回っている。

4-2 地域活動における男女の役割や仕組み、考え方 ……………

問7. 今後、男性と女性が家事、子育てや教育、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が43.2%で最多

図表4-2 地域活動における男女の役割や仕組み、考え方



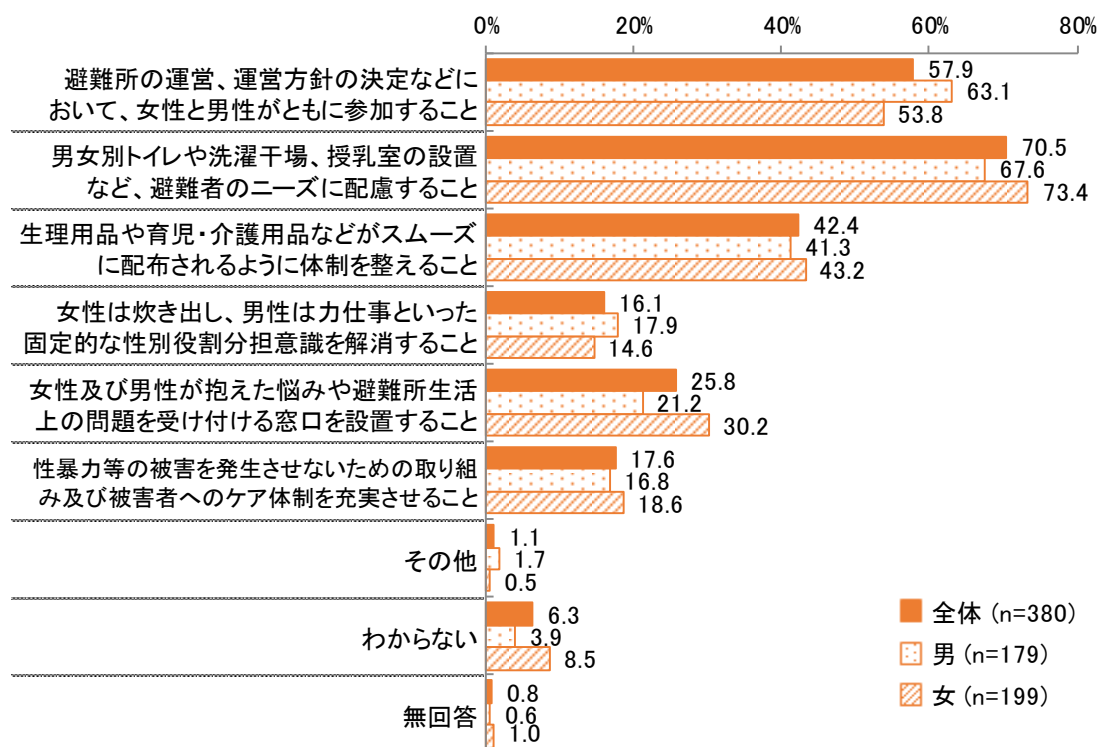
- 「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(43.2%)が最も多く、次いで「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」(35.0%)、「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」(26.3%)となっている。
- 男女別に見ると、「仕事中心という社会全体の仕組みを改めること」は“男性”が 35.2%と多くなっており“女性”より16.6ポイント上回っている。
- 「夫婦の間で家事などの分担をするように十分に話し合うこと」「家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をすること」は“女性”のほうが“男性”より約14ポイント上回っている。

4-3 災害時の避難所運営における、必要だと思う取り組み ……………

問8. 災害時の避難所運営について、男女共同参画の視点からあなたはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」が約7割を占める

図表4-3 災害時の避難所運営における、必要だと思う取り組み



- 「男女別トイレや洗濯干場、授乳室の設置など、避難者のニーズに配慮すること」(70.5%)が最も多く、次いで「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること」(57.9%)、「生理用品や育児・介護用品などがスムーズに配布されるように体制を整えること」(42.4%)となっている。
- 男女別に見ると、「避難所の運営、運営方針の決定などにおいて、女性と男性がともに参加すること」は“男性”が63.1%と多くなっており“女性”より9.3ポイント上回っている。
- 「女性及び男性が抱えた悩みや避難所生活上の問題を受け付ける窓口を設置すること」は“女性”が30.2%となっており“男性”より9.0ポイント上回っている。

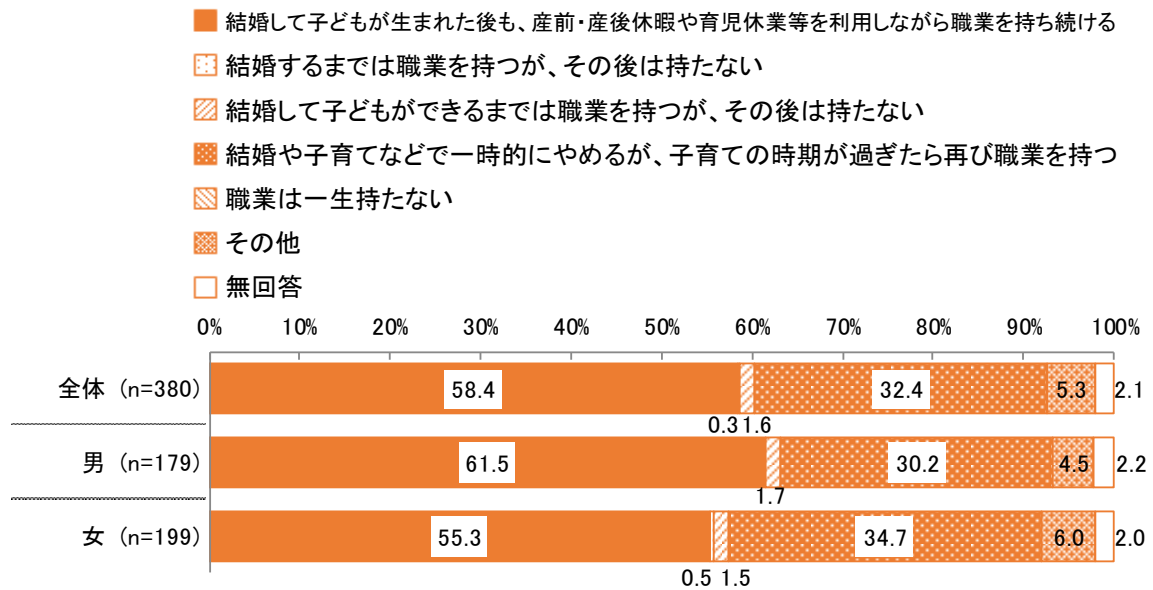
5. 職業生活・女性の活躍について

5-1 女性の職業へのかかわり方

問9. 女性の職業へのかかわり方について、あなたはどのような形が最も望ましいと思いますか。(〇は1つ)

「結婚して子どもが生まれた後も、産前・産後休暇や育児休業等を利用しながら職業を続ける」が58.4%で最多

図表 5-1 女性の職業へのかかわり方



➤ 「結婚して子どもが生まれた後も、産前・産後休暇や育児休業等を利用しながら職業を続ける」(58.4%)が最も多く、次いで「結婚や子育てなどで一時的にやめるが、子育ての時期が過ぎたら再び職業を持つ」(32.4%)、「その他」(5.3%)となっている。

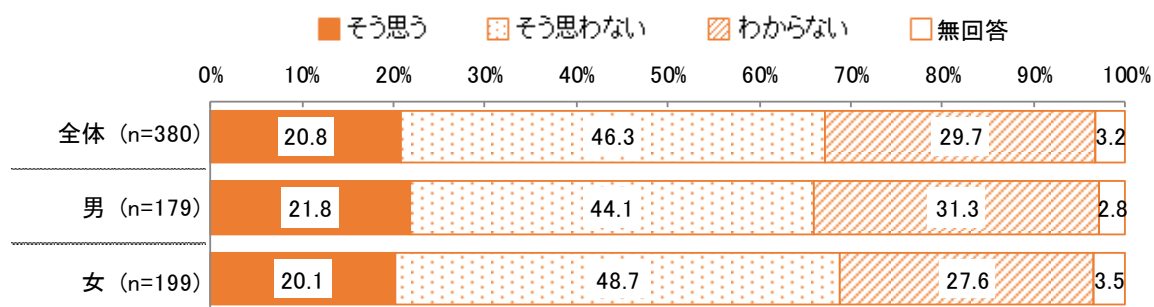
➤ 男女別に見ると、「結婚して子どもが生まれた後も、産前・産後休暇や育児休業等を利用しながら職業を続ける」は“男性”のほうが“女性”より6.2ポイント上回っている。

5-2 女性の働きやすさについて

問10. あなたは、現在の女性は働きやすい状況にあると思いますか。(○は1つ)

「そう思わない」が46.3%で最多、次いで「わからない」(29.7%)、「そう思う」(20.8%)

図表5-2 女性の働きやすさ



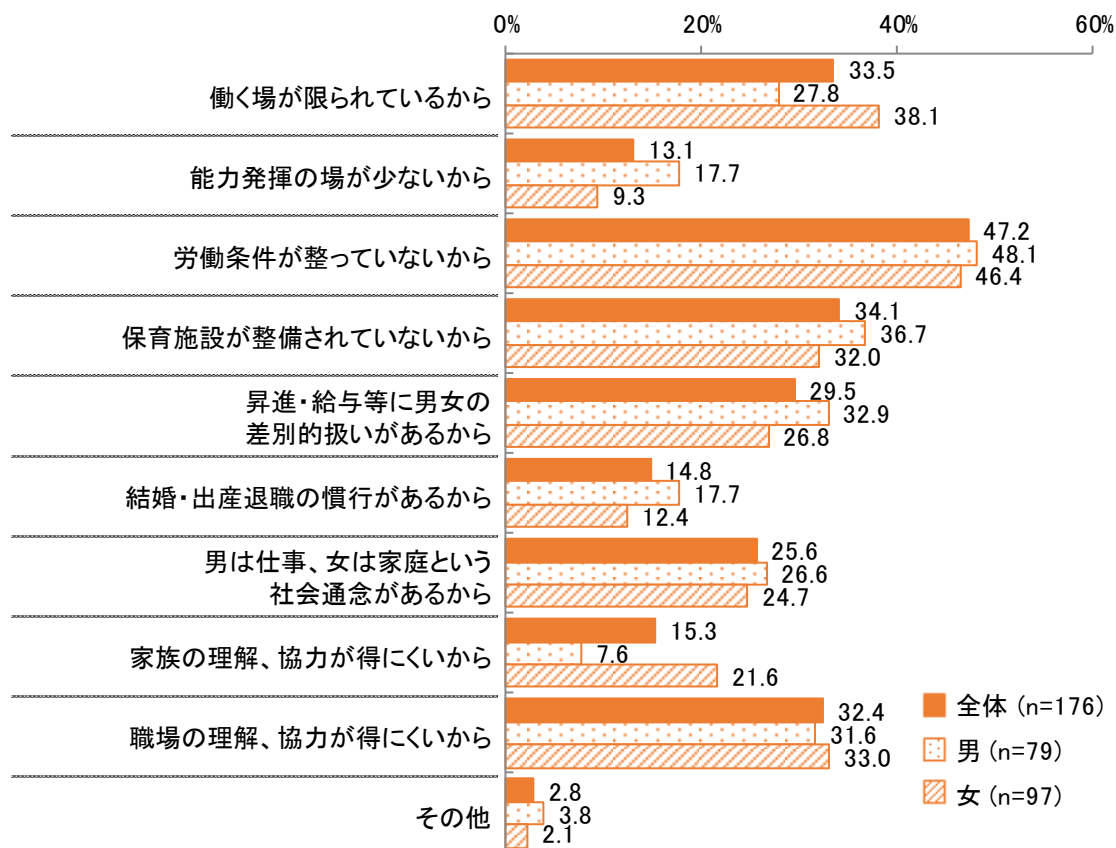
- 「そう思わない」(46.3%)が最も多く、次いで「わからない」(29.7%)、「そう思う」(20.8%)となっている。
- 男女別に見ると、「そう思わない」は“女性”のほうが“男性”より4.6ポイント上回っている。

5-3 女性は働きやすくないと思う理由

【問10で「そう思わない」に○印をつけた方にお聞きします。】
 問10-1. そう思わない理由は何ですか。(○は3つまで)

「労働条件が整っていない」が47.2%で最多、次いで「保育施設が整備されていない」

図表 5-3 女性は働きやすくないと思う理由



- 「労働条件が整っていないから」(47.2%)が最も多く、次いで「保育施設が整備されていないから」(34.1%)、「働く場が限られているから」(33.5%)となっている。
- 男女別に見ると、「能力発揮の場が少ないから」は“男性”のほうが“女性”より 8.4 ポイント上回っている。
- “女性”のほうが“男性”より大きく上回っている項目は、「家族の理解、協力が得にくいから」で 14.0 ポイント、「働く場が限られているから」で 10.3 ポイントの差がある。

5-4 育児休暇・介護休暇制度の認知状況、取得状況

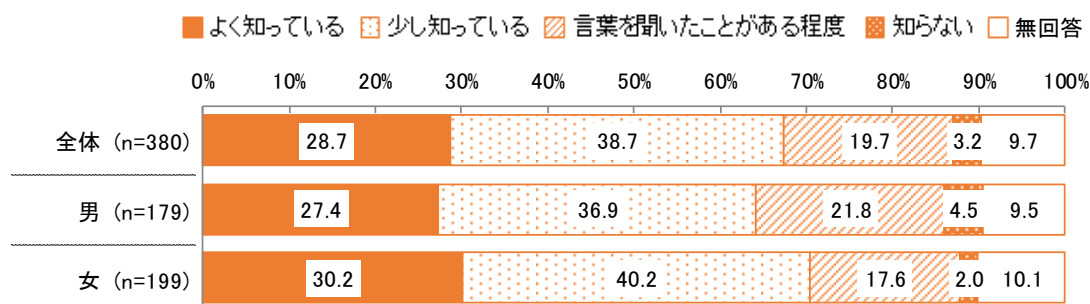
問 11. あなたは、次の制度の内容についてご存知ですか。A、Bのそれぞれの項目について認知状況、取得状況をお答えください。
(認知状況、取得状況A、Bのそれぞれ〇は1つ)

(a) 認知状況

A 育児休業制度

「少し知っている」が38.7%で最多、次いで「よく知っている」が28.7%

図表5-4 育児休業制度の認知状況

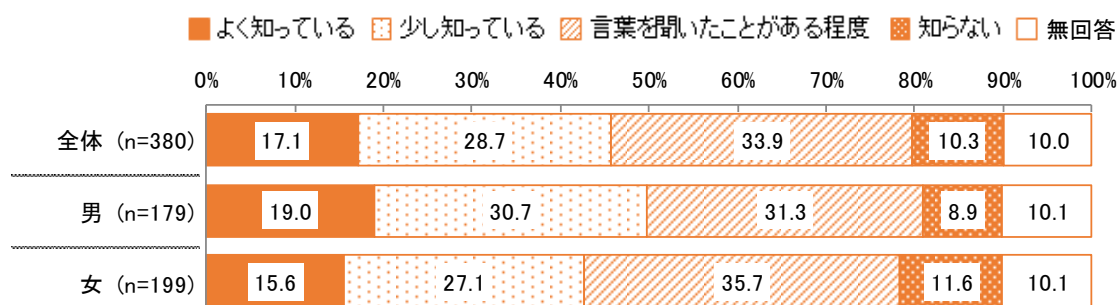


- 「少し知っている」(38.7%)が最も多く、次いで「よく知っている」(28.7%)、「言葉を聞いたことがある程度」(19.7%)となっている。
- 男女別に見ると、「言葉を聞いたことがある程度」は“男性”のほうが“女性”より4.2ポイント上回っている。

B 介護休業制度

「言葉を聞いたことがある程度」が33.9%で最多、次いで「少し知っている」が28.7%

図表5-5 介護休業制度の認知状況



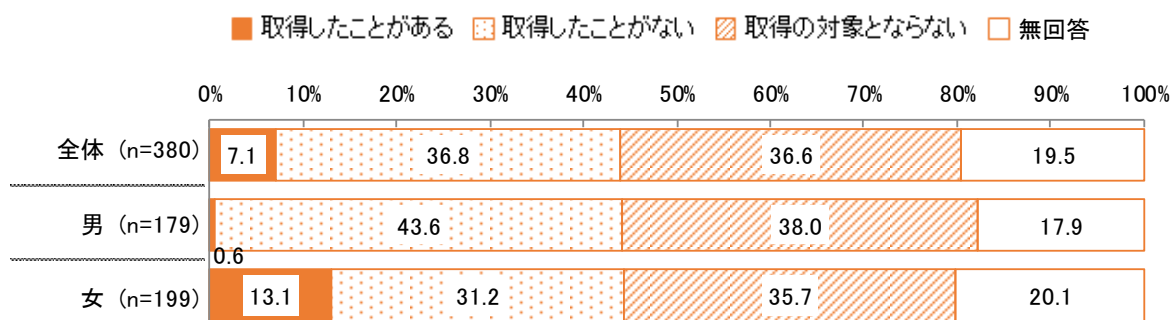
- 「言葉を聞いたことがある程度」(33.9%)が最も多く、次いで「少し知っている」(28.7%)、「よく知っている」(17.1%)となっている。
- 男女別に見ると、「言葉を聞いたことがある程度」は“女性”のほうが“男性”より4.4ポイント上回っている。

(b) 取得状況

A 育児休業制度

「取得したことがない」と「取得の対象とならない」がともに3割台半ば

図表5-6 育児休業制度の取得状況

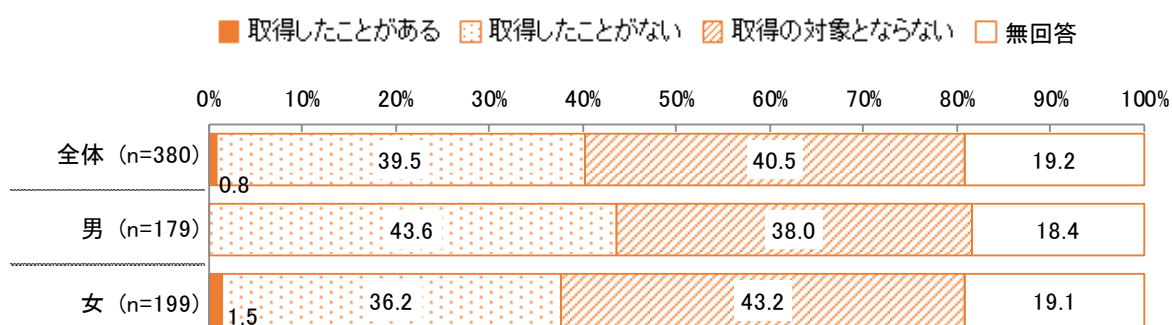


- 「取得したことがない」(36.8%)と「取得の対象とならない」(36.6%)がともに3割台半ばとなり、「取得したことがある」は7.1%にとどまる。
- 男女別に見ると、「取得したことがある」は“男性”は1%未満、“女性”は13.1%となっている。

B 介護休業制度

「取得の対象とならない」と「取得したことがない」がともに約4割

図表5-7 介護休業制度の取得状況



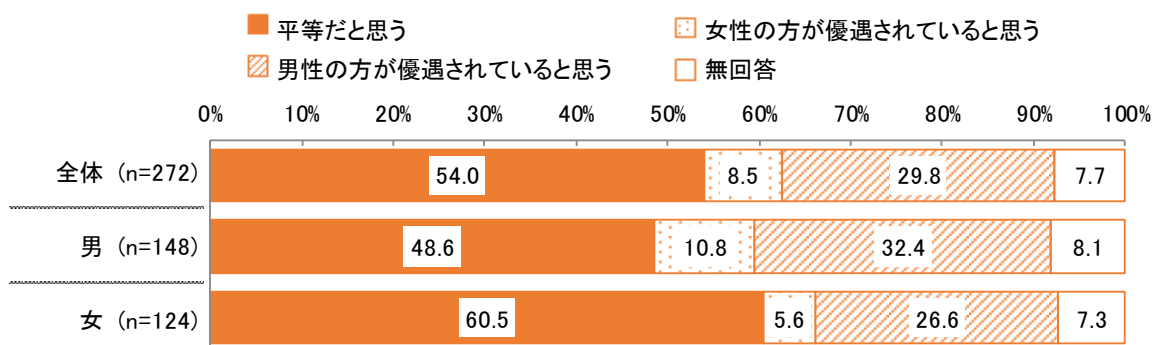
- 「取得の対象とならない」(40.5%)と「取得したことがない」(39.5%)がともに約4割となり、「取得したことがある」は1%未満にとどまる。
- 男女別に見ると、「取得したことがない」は“男性”のほうが“女性”より7.4ポイント上回っている。

5-5 勤務先の男女平等について

【現在、働いている方にお聞きします。】
 問 12. あなたの働いているところでは、女性と男性は平等だと思いますか。(○は1つ)

「平等だと思う」が 54.0%で最多、次いで「男性の方が優遇されていると思う」が 29.8%

図表 5-8 勤務先の男女平等について



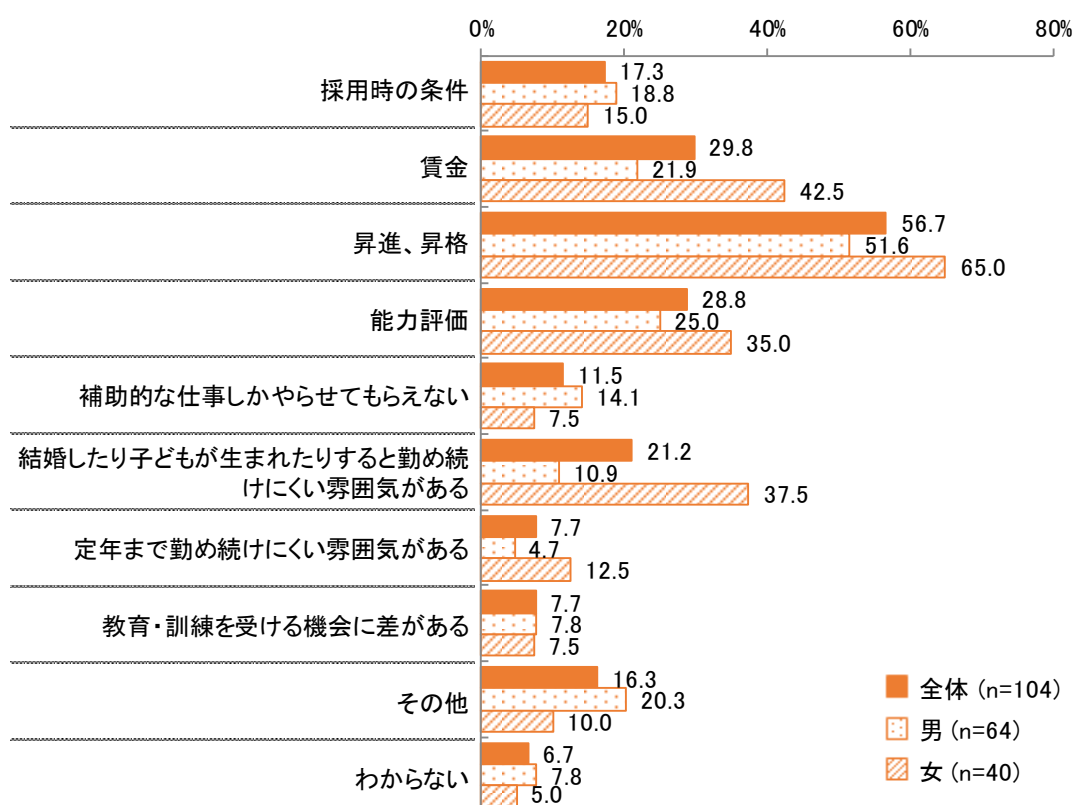
- 「平等だと思う」(54.0%)が最も多く、次いで「男性の方が優遇されていると思う」(29.8%)、「女性の方が優遇されていると思う」(8.5%)となっている。
- 男女別に見ると、「平等だと思う」は“女性”で 60.5%と多くなっており “男性”より 11.9 ポイント上回っている。

5-6 男女平等だと思わない理由

【問12で「女性の方が優遇されていると思う」または「男性の方が優遇されていると思う」に○印をつけた方にお聞きします。】
 問12-1. あなたの働いているところで男女が平等だと思わないのは、どのようなことですか。(○はいくつでも)

「昇進、昇格」が56.7%で最多、次いで「賃金」(29.8%)、「能力評価」(28.8%)

図表5-9 男女平等だと思わない理由



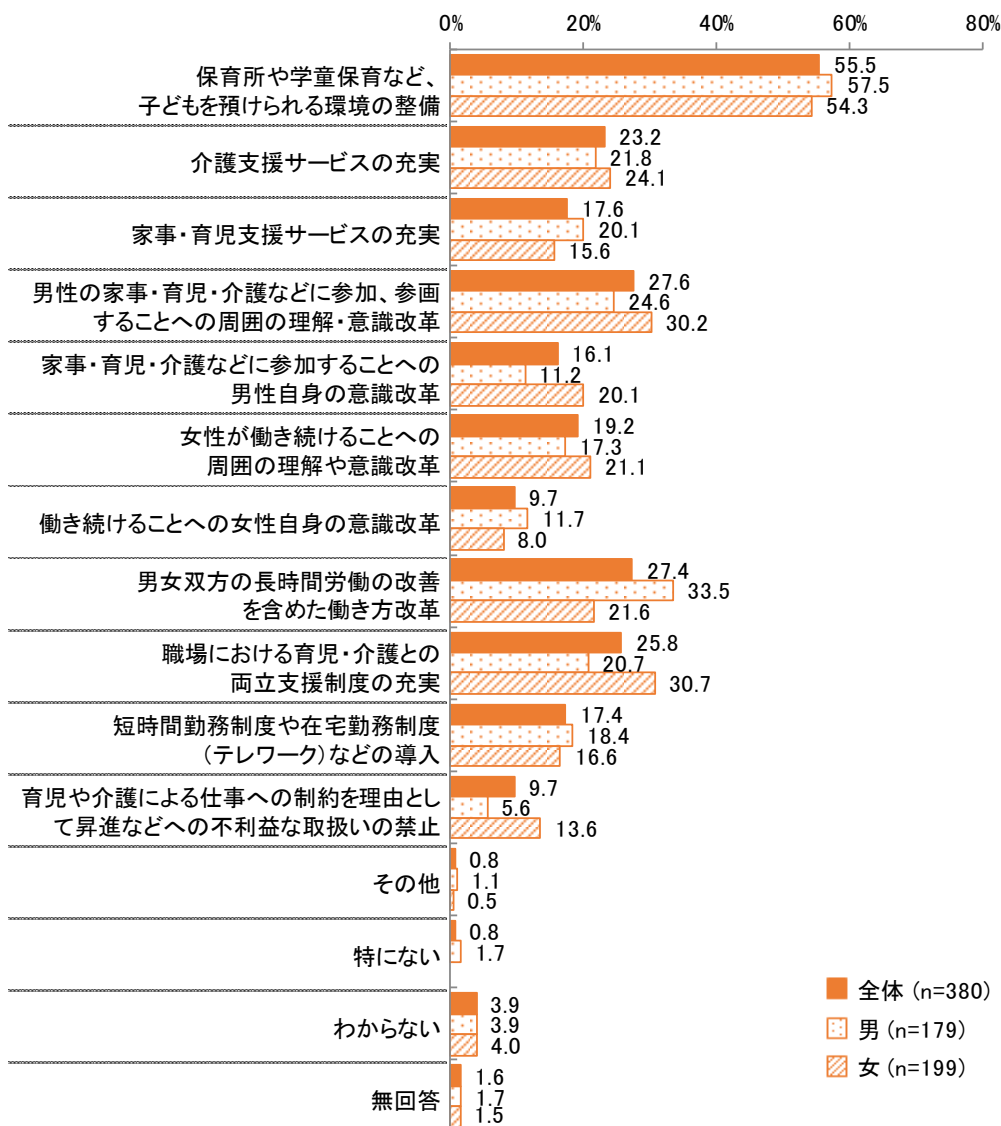
- 「昇進、昇格」(56.7%)が最も多く、次いで「賃金」(29.8%)、「能力評価」(28.8%)となっている。
- 男女別に見ると、“女性”のほうが“男性”より大きく上回っている項目は、「結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある」で 26.6 ポイント、「賃金」で 20.6 ポイント、「昇進、昇格」で 13.4 ポイントの差がある。

5-7 同じ職場に働き続けるために必要なこと

問 13. あなたは、男女が離職せず同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。(〇は3つまで)

「保育所や学童保育など、子どもを預けられる環境の整備」が 55.5% で最多

図表 5-10 同じ職場に働き続けるために必要なこと



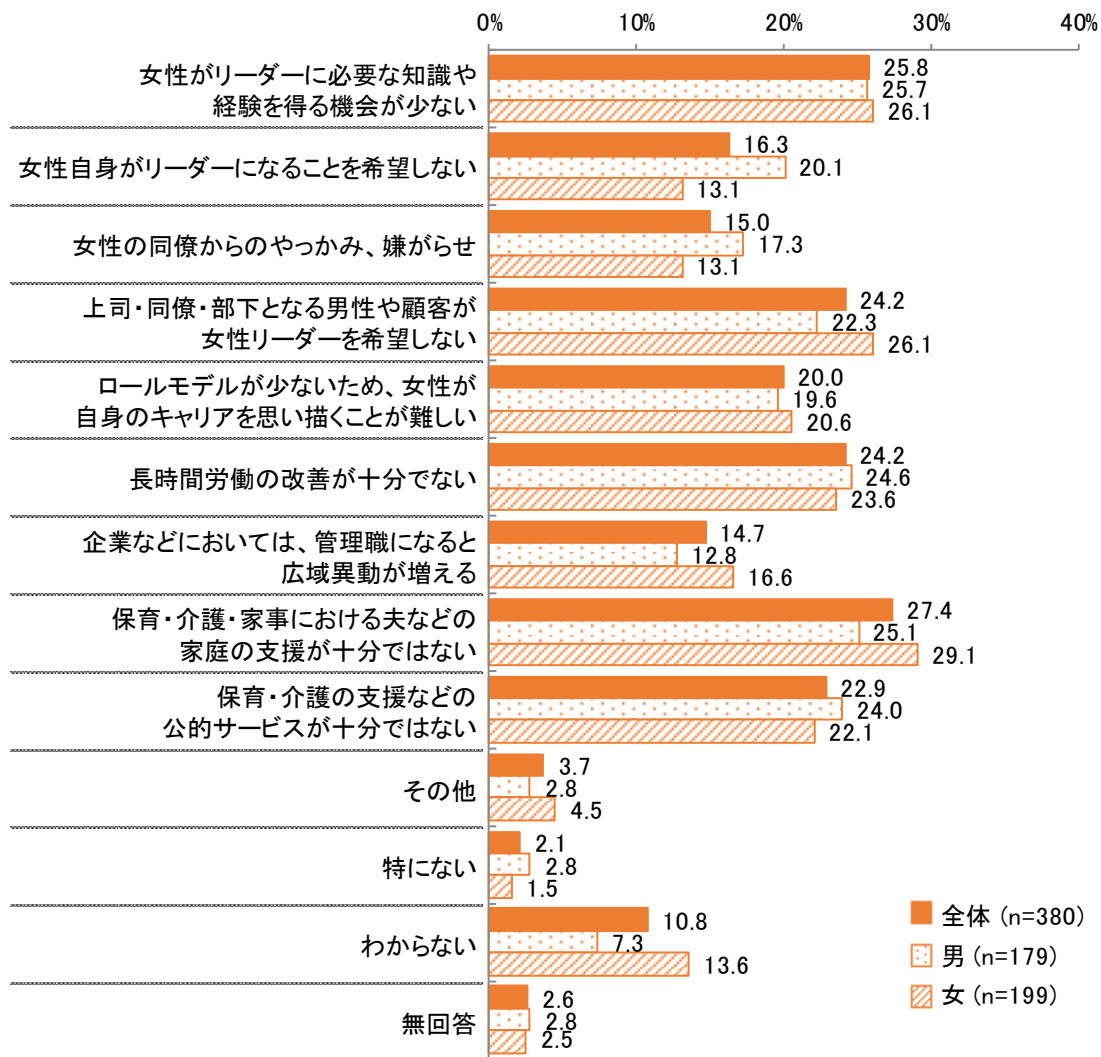
- 「保育所や学童保育など、子どもを預けられる環境の整備」(55.5%)が最も多く、次いで「男性の家事・育児・介護などに参加、参画することへの周囲の理解・意識改革」(27.6%)、「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」(27.4%)となっている。
- 男女別に見ると、「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」は“男性”が 33.5% となっており “女性”より 11.9 ポイント上回っている。
- “女性”のほうが“男性”より上回っている項目は、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」で 10.0 ポイント、「家事・育児・介護などに参加することへの男性自身の意識改革」で 8.9 ポイントの差がある。

5-8 各分野での女性リーダーについて

問 14. あなたは、政治・経済・地域社会などの各分野で女性のリーダーを増やすときに課題となるものは何だと思えますか。(〇は3つまで)

「保育・介護・家事における夫などの家庭の支援が十分ではない」が27.4%で最多

図表5-11 各分野で女性リーダーを増やす際の課題



- 「保育・介護・家事における夫などの家庭の支援が十分ではない」(27.4%)が最も多く、次いで「女性がリーダーに必要な知識や経験を得る機会が少ない」(25.8%)、「上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しない」「長時間労働の改善が十分でない」(24.2%)となっている。
- 男女別に見ると、「女性自身がリーダーになることを希望しない」は“男性”が20.1%となっており“女性”より7.0ポイント上回っている。
- 「わからない」は“女性”のほうが“男性”より6.3ポイント上回っている。

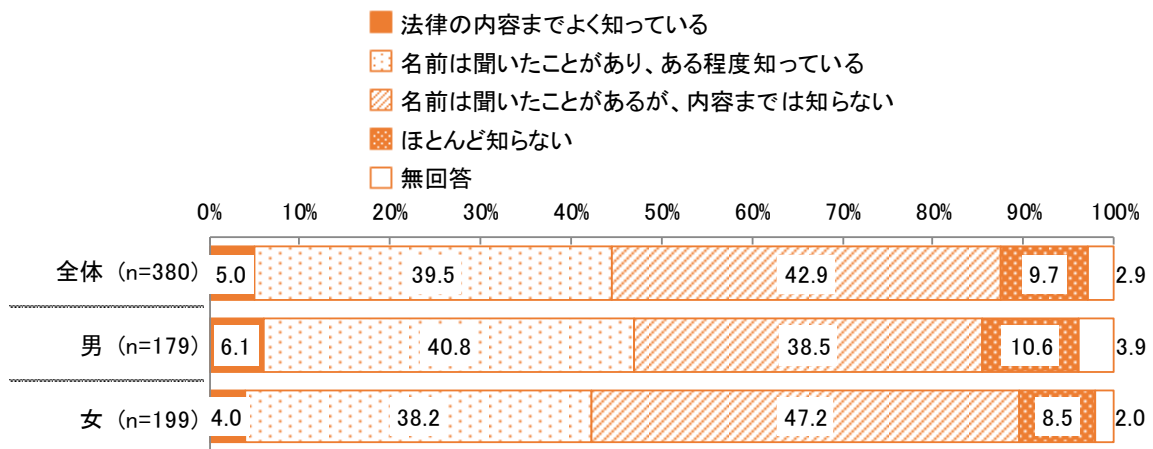
6. 女性の人権、DV（ドメスティック・バイオレンス：配偶者や恋人などからの暴力）などの男女間の暴力について

6-1 DV防止法の認知度

問 15. あなたは、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」（通称：DV防止法）をご存じですか。（○は1つ）

「名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない」が42.9%で最多

図表 6-1 DV防止法の認知度



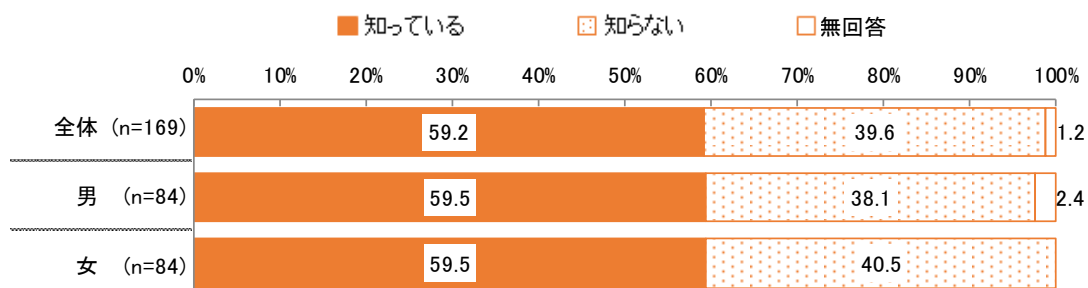
- 「名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない」(42.9%)が最も多く、次いで「名前は聞いたことがあり、ある程度知っている」(39.5%)、「ほとんど知らない」(9.7%)となっている。
- 男女別に見ると、「名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない」は“女性”のほうが“男性”より8.7ポイント上回っている。

6-2 DV発見時の通報について

【問 15で「よく知っている」、「ある程度知っている」に○印をつけた方にお聞きします。】
 問 15-1. DV防止法では、配偶者からの暴力を受けている人を見つけた場合は配偶者暴力相談支援センター等へ通報するよう呼びかけていますが、このことをあなたはご存じですか。(○は1つ)

「知っている」が約6割

図表 6-2 DV発見時の通報について



- 「知っている」(59.2%)が最も多く、次いで「知らない」(39.6%)となっている。
- 男女による大きな差は見られず、ほぼ同じ傾向となっている。

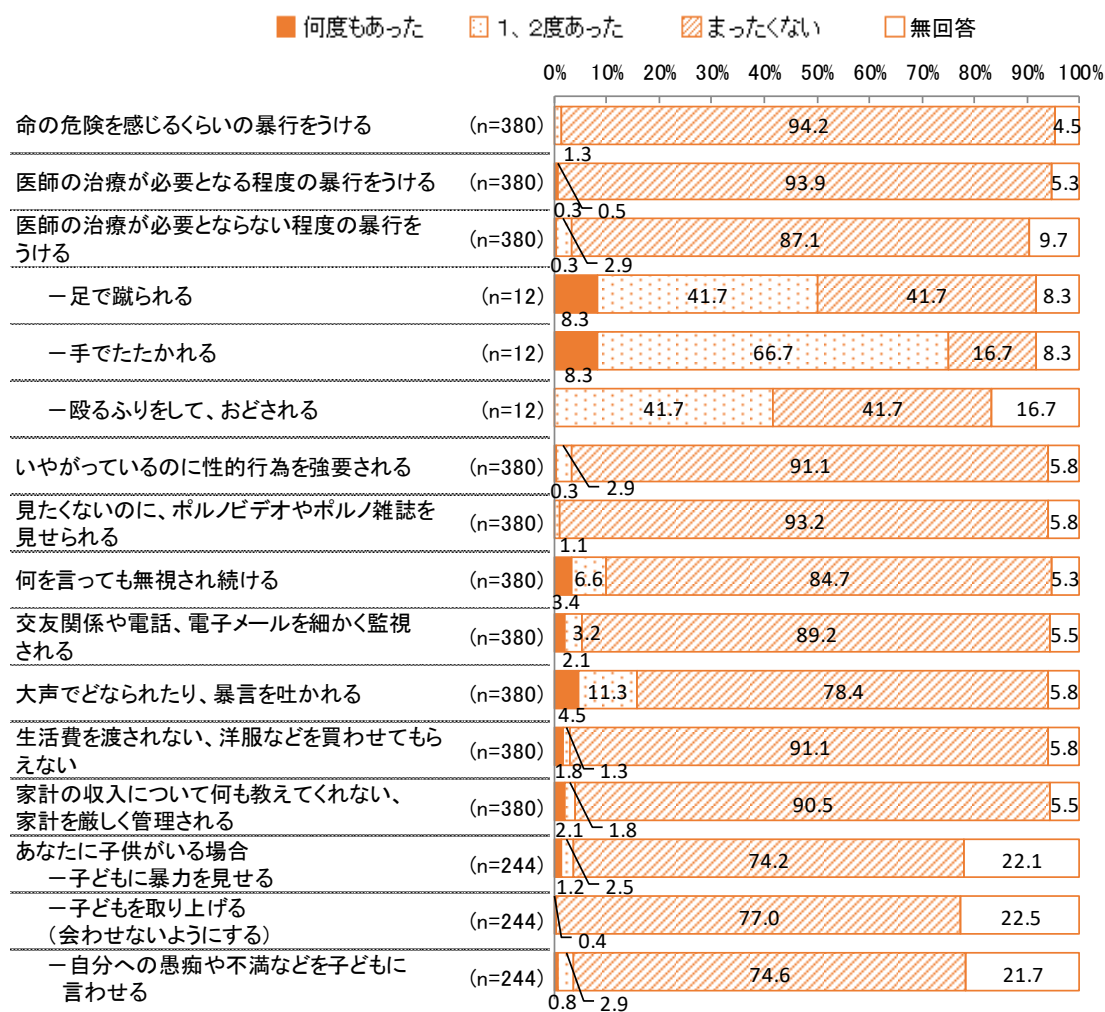
6-3 DV経験

問 16. あなたはこれまでに、配偶者や恋人から、次のようなことをされた経験がありますか。
(A～Kのそれぞれ〇は1つ)

(a) 全体

『大声でどなられたり、暴言を吐かれる』において「あった」が15.8%

図表 6-3 DV経験

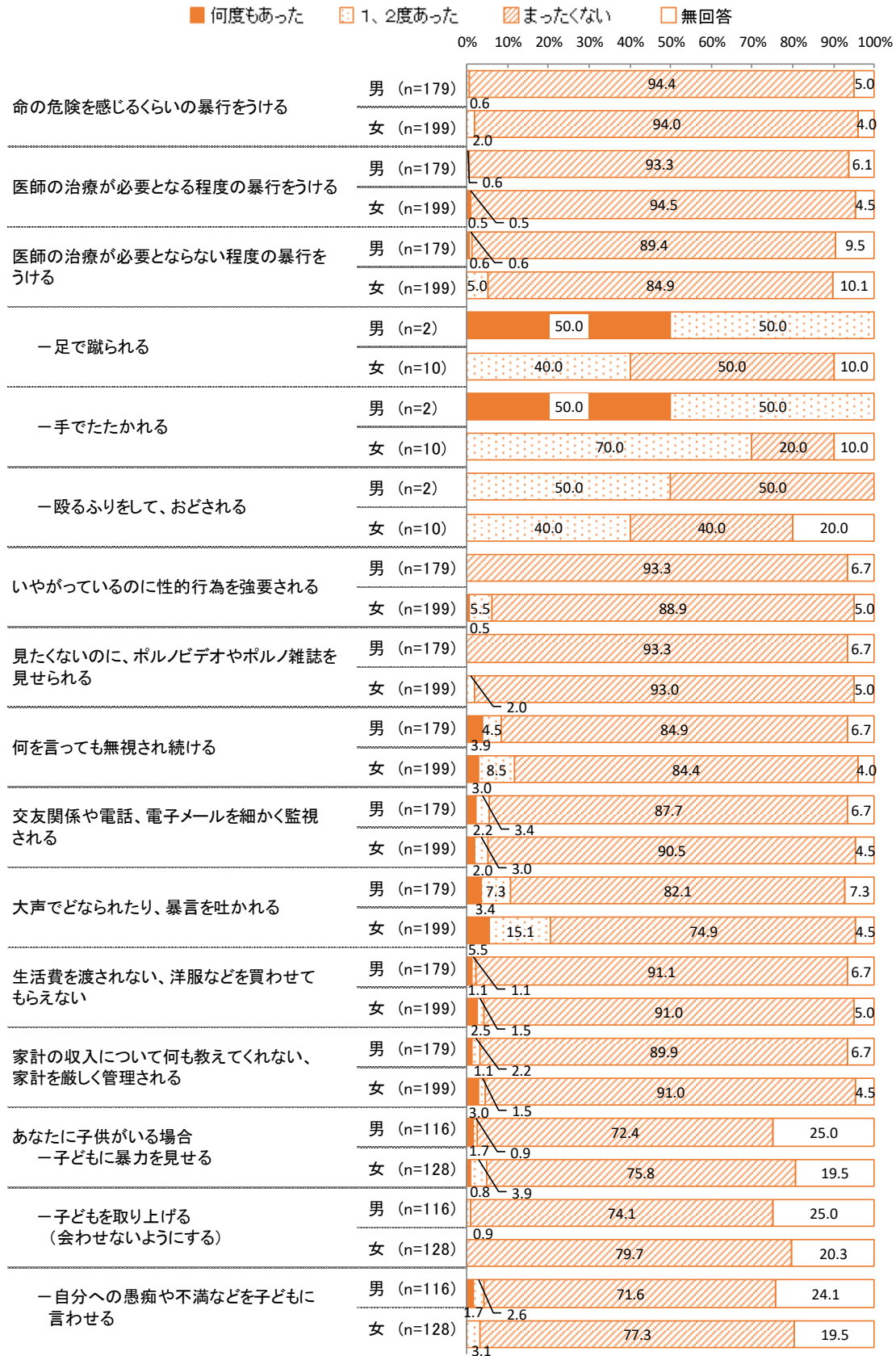


- 『大声でどなられたり、暴言を吐かれる』において「何度もあった」が 4.5%、「1, 2度あった」が 11.3%と他の項目よりも多くなっている。
- 次いで、『何を言っても無視され続ける』において、「何度もあった」が 3.4%、「1, 2度あった」が 6.6%と他の項目よりも多くなっている。

(b) 男女別

『大声でどなられたり、暴言を吐かれる』において「あった」が男性で10.7%、女性で20.6%

図表 6-4 DV 経験 (男女別)



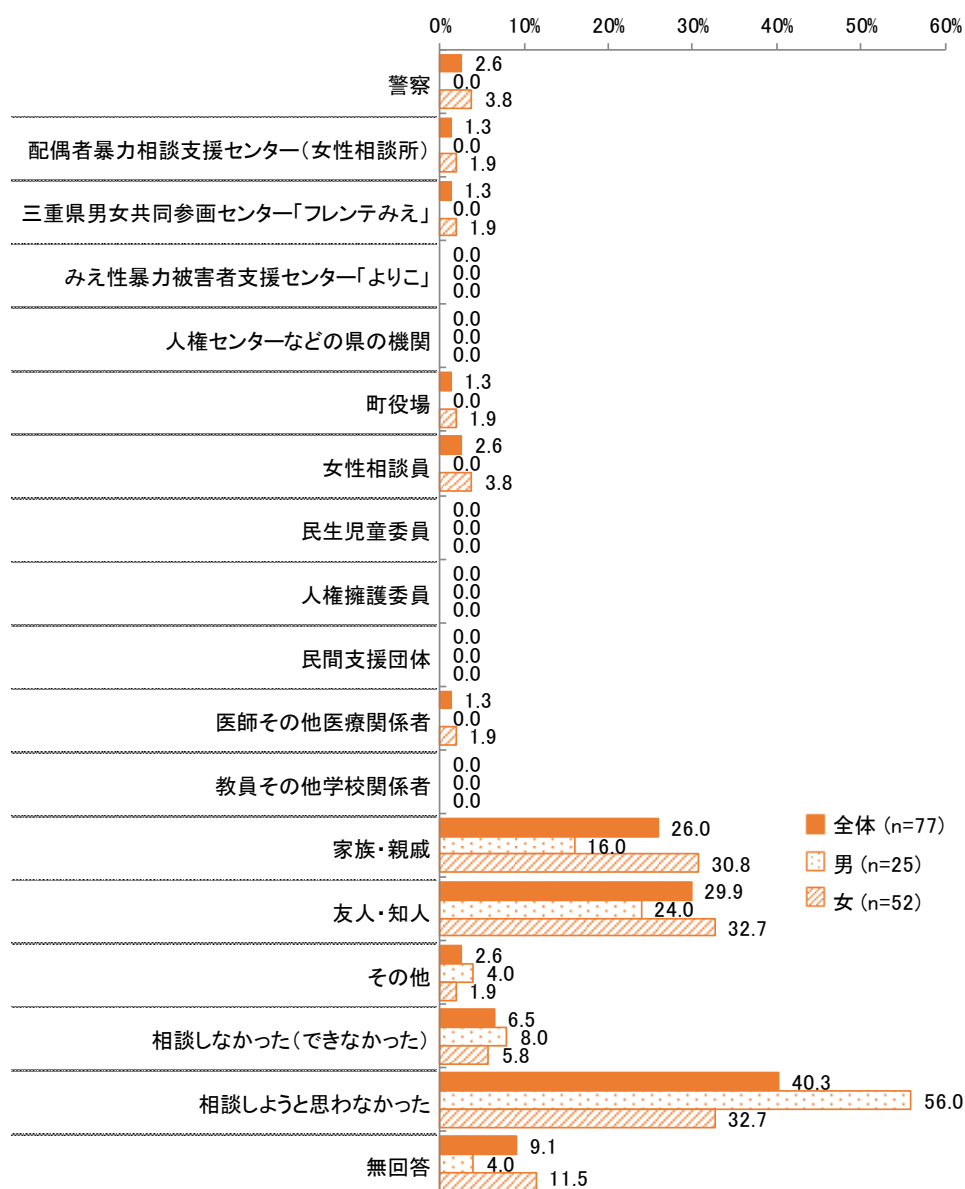
6-4 DVの相談先

【問16で「何度もあった」「1、2度あった」に○印をつけた方にお聞きします。】

問16-1. あなたはこれまでに、問16であげたような配偶者や恋人からの行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○はいくつでも)

「相談しようと思わなかった」が40.3%で最多、次いで「友人・知人」が29.9%

図表6-5 DVの相談先



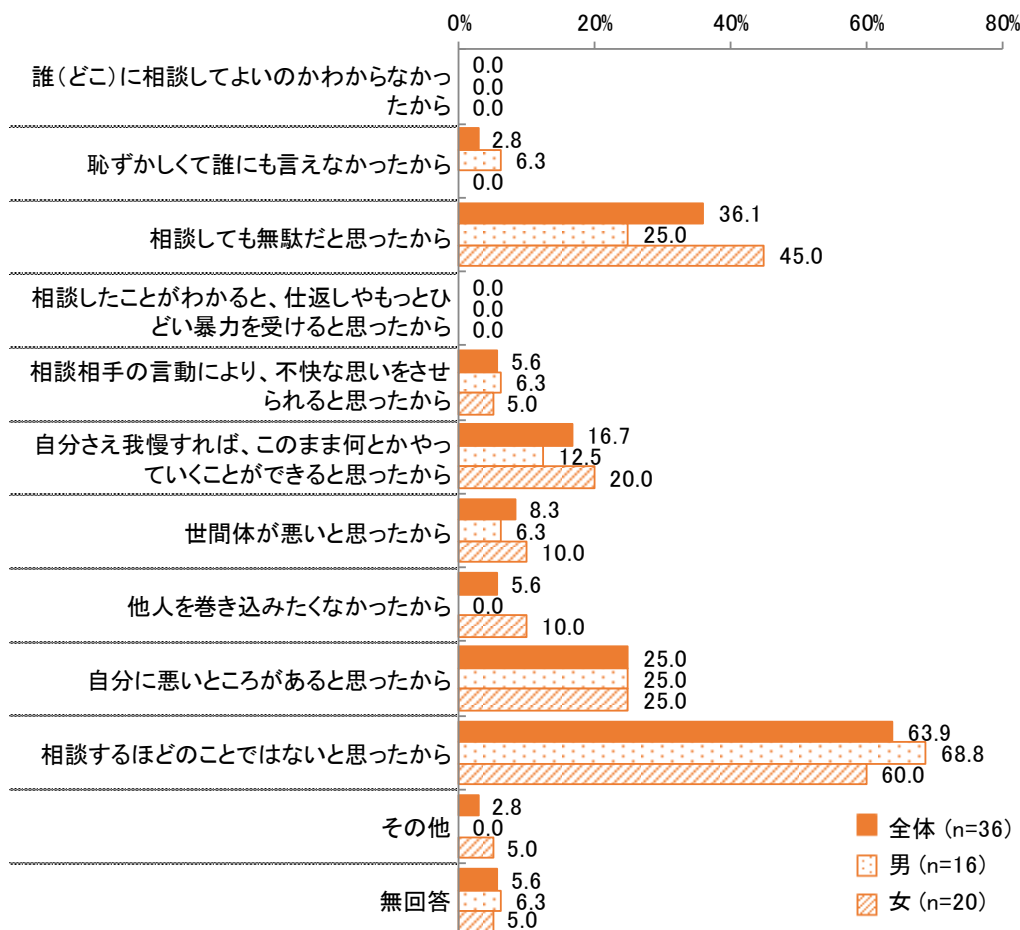
- 「相談しようと思わなかった」(40.3%)が最も多く、次いで「友人・知人」(29.9%)、「家族・親戚」(26.0%)となっている。
- 男女別に見ると、「相談しようと思わなかった」は「男性」が56.0%と多くなっており、「女性」より23.3ポイント上回っている。
- 「家族・親戚」は「女性」が30.8%となっており、「男性」より14.8ポイント上回っている。

6-5 DVを相談しなかった理由

【問 16-1 で「相談しなかった（できなかった）」または「相談しようと思わなかった」に○印をつけた方にお聞きします。】
 問 16-2. 相談しなかった主な理由は何ですか。（○はいくつでも）

「相談するほどのことではないと思ったから」が 63.9%で最多

図表 6-6 DVを相談しなかった理由



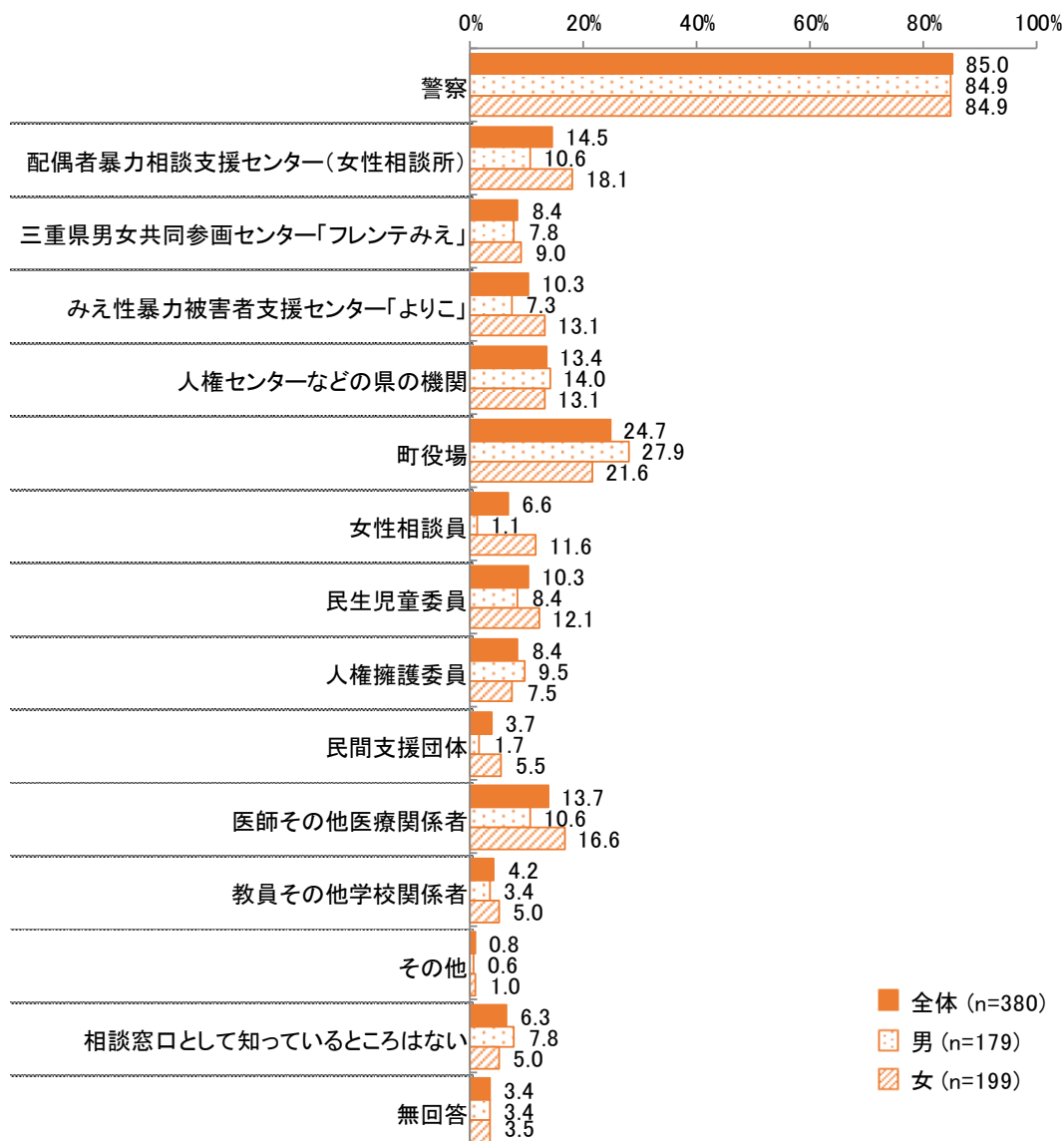
- 「相談するほどのことではないと思ったから」(63.9%)が最も多く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」(36.1%)、「自分に悪いところがあると思ったから」(25.0%)となっている。
- 男女別に見ると、「相談しても無駄だと思ったから」は“女性”が 45.0%と多くなっており、“男性”より 20.0 ポイント上回っている。

6-6 DVの相談窓口等の認知度

問17. 配偶者や恋人の間で、相手から暴力を受けたときに相談できる機関や関係者のうち、知っているものはどれですか。(〇はいくつでも)

「警察」が8割を超えて最多

図表6-7 DVの相談窓口等の認知度



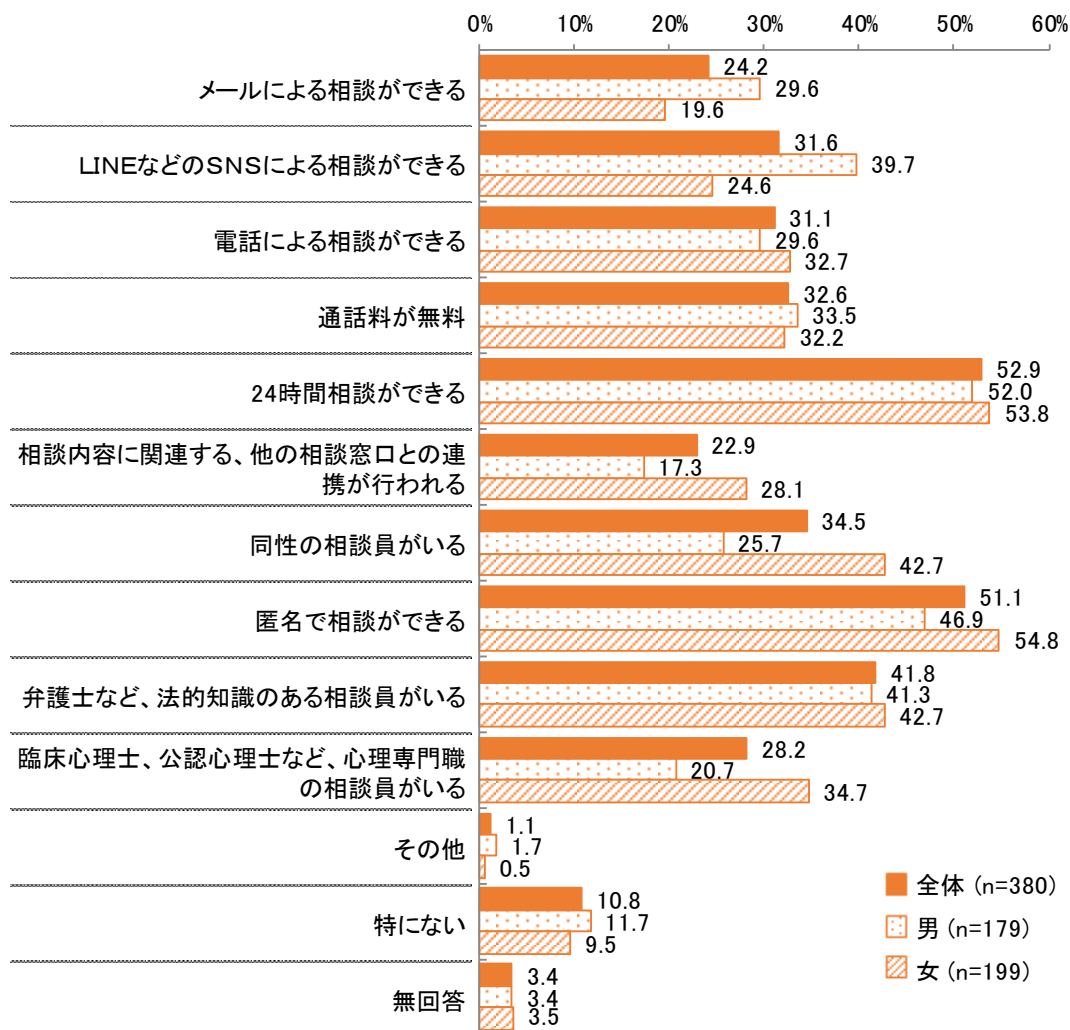
- 「警察」(85.0%)が最も多く、次いで「町役場」(24.7%)、「配偶者暴力相談支援センター(女性相談所)」(14.5%)となっている。
- 男女別に見ると、「女性相談員」は“女性”で11.6%に対し、“男性”は1.1%にとどまる。

6-7 DVの相談窓口等で配慮してほしいこと

問 18. あなたは、性暴力・DVやさまざまな悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいとおもうことは何ですか。(〇はいくつでも)

「24時間相談できる」が52.9%で最多、次いで「匿名で相談できる」が多い

図表6-8 DVの相談窓口等で配慮してほしいこと



- 「24時間相談ができる」(52.9%)と「匿名で相談ができる」(51.1%)がともに5割台で多く、次いで、「弁護士など、法的知識のある相談員がいる」(41.8%)となっている。
- 男女別に見ると、「LINEなどのSNSによる相談ができる」は“男性”が39.7%と多くなっており、“女性”より15.1ポイント上回っている。
- “女性”のほうが“男性”より上回っている項目は、「同性の相談員がいる」で17.0ポイント、「臨床心理士、公認心理士など、心理専門職の相談員がいる」で14.0ポイントの差がある。

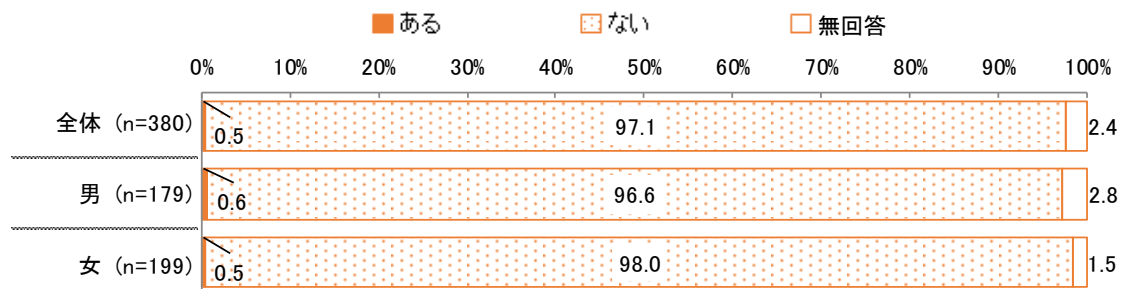
7. 性のあり方の多様性について

7-1 自分の性別についての悩み

問19. あなたは、今まで自分の性別に悩んだことはありますか。(〇は1つ)

ほとんどの方が「ない」と回答、「ある」は1%未満

図表7-1 自分の性別についての悩み



- 「ない」が97.1%、「ある」が0.5%となっている。
- 男女による大きな差は見られず、ほぼ同じ傾向となっている。

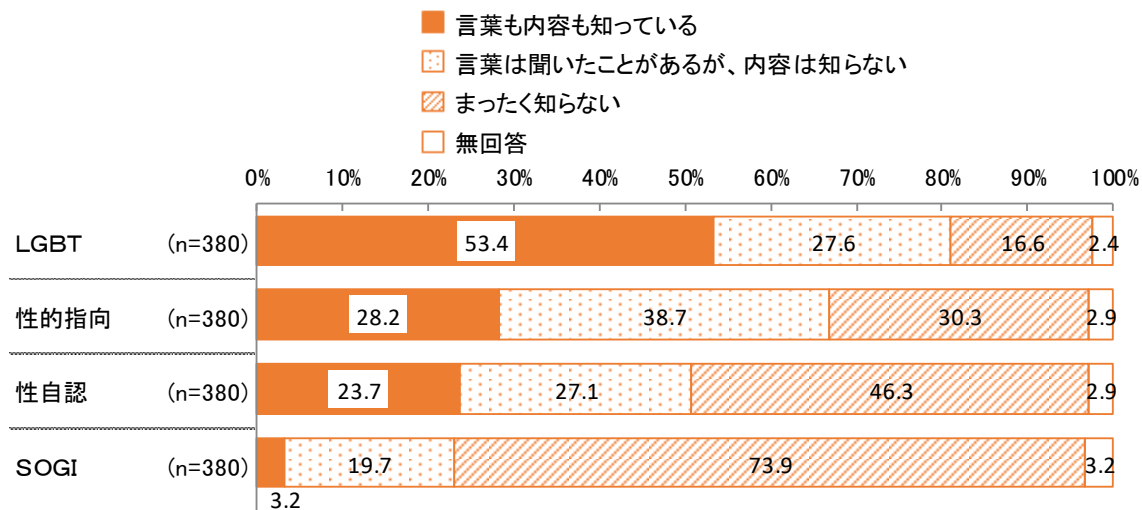
7-2 言葉の認知度

問 20. あなたは次の言葉をどの程度知っていますか。(A～Dのそれぞれ○は1つ)

(a) 全体

『LGBT』で「言葉も内容も知っている」が5割を超える

図表 7-2 言葉の認知度

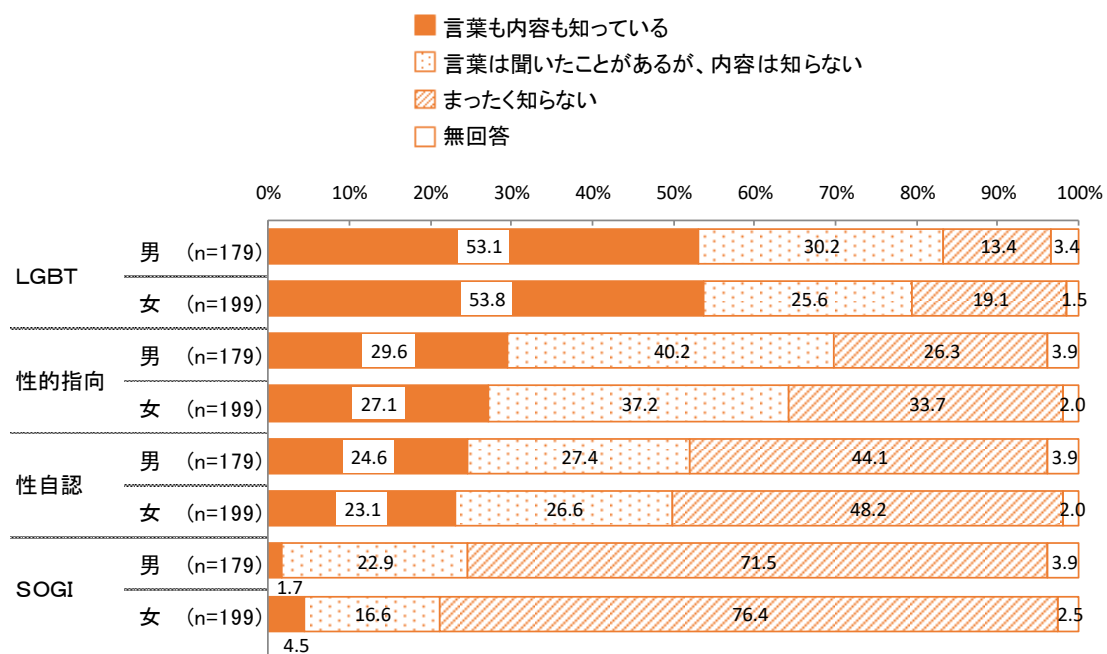


- 『LGBT』では「言葉も内容も知っている」が53.4%で最も多く、「まったく知らない」は16.6%にとどまる。
- 『性的指向』では「言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」が38.7%で最も多く、次いで「まったく知らない」が30.3%となっている。
- 『性自認』では「まったく知らない」が46.3%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」が27.1%となっている。
- 『SOGI』では「まったく知らない」が73.9%で最も多く、「言葉も内容も知っている」は3.2%にとどまる。

(b) 男女別

『LGBT』で「言葉も内容も知っている」が5割を超える

図表 7-3 言葉の認知度（男女別）



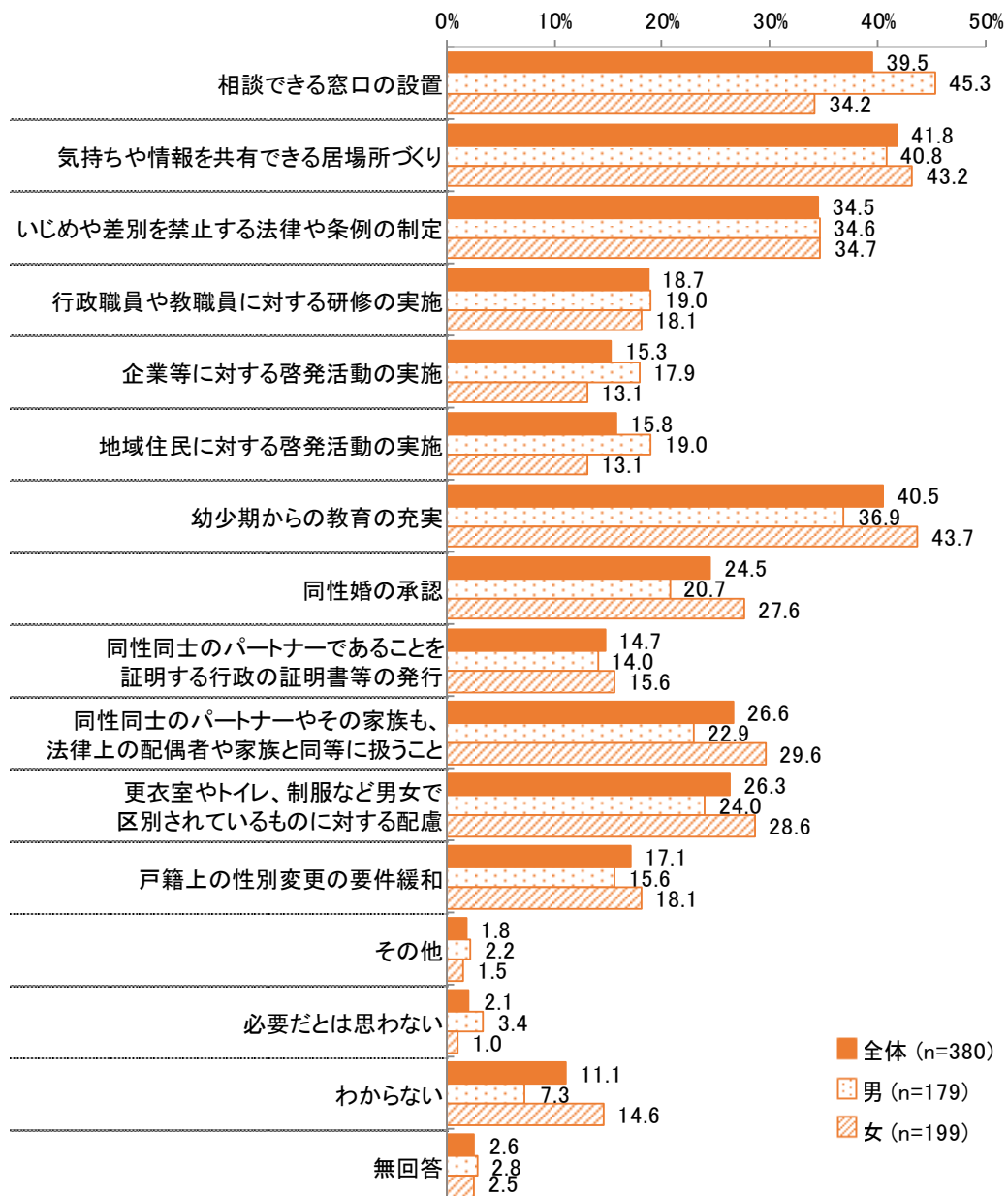
- 男女別に見ると、『SOGI』で「言葉は聞いたことがあるが、内容は知らない」は、“男性”が22.9%となっており“女性”より6.3ポイント上回っている。
- 『性的指向』で「まったく知らない」は、“女性”のほうが“男性”より7.4ポイント上回っている。

7-3 性的少数者が暮らしやすい社会にするための意識啓発・支援 ……………

問 21. あなたは、性的少数者の方たちが暮らしやすい社会にするためには、どのような意識啓発や支援が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

「気持ちや情報を共有できる居場所づくり」「幼少期からの教育の充実」が4割を超える

図表 7-4 性的少数者が暮らしやすい社会にするための意識啓発・支援



- 「気持ちや情報を共有できる居場所づくり」(41.8%)と「幼少期からの教育の充実」(40.5%)と「相談できる窓口の設置」(39.5%)が4割前後で並んでいる。
- 男女別に見ると、「相談できる窓口の設置」は“男性”が45.3%と多く、“女性”より11.1ポイント上回っている。

8. 男女共同参画社会について

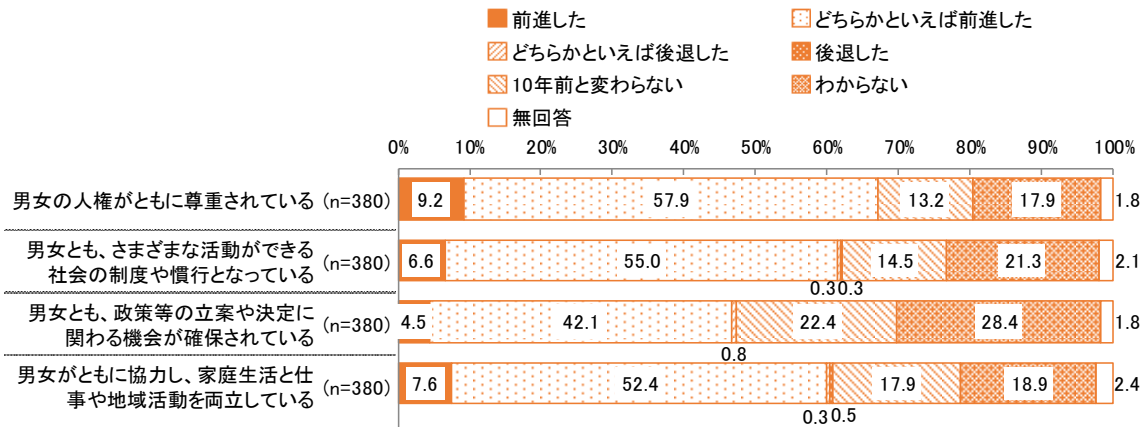
8-1 男女共同参画社会の現状（10年前と比較して）

問 22. 男女共同参画社会を実現するための基本理念について、10年前（平成 23 年頃）と比較して、社会全体としての現状をどのように感じていますか。（A～Dのそれぞれ〇は1つ）

(a) 全体

『男女の人権がともに尊重されている』において「前進した・どちらかといえば前進した」の回答が約7割

図表 8-1 男女共同参画社会の現状（10年前と比較して）

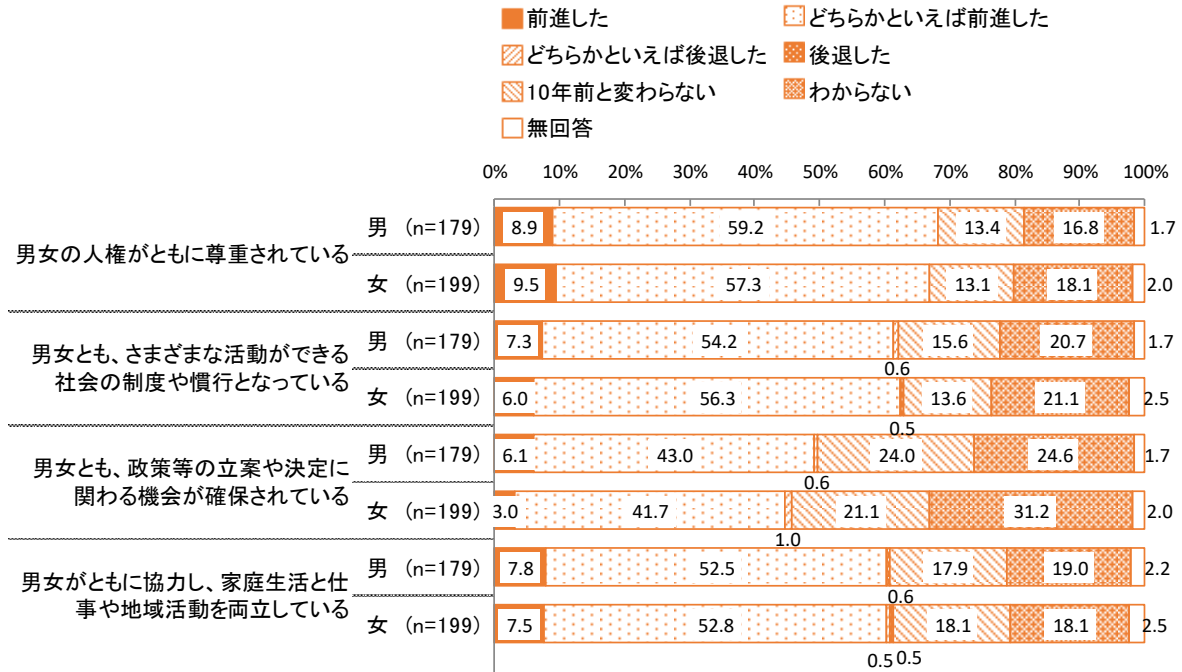


- 『男女の人権がともに尊重されている』において「前進した」(9.2%)と「どちらかといえば前進した」(57.9%)を合わせると67.1%となり多くなっている。
- 『男女とも、政策等の立案や決定に関わる機会が確保されている』において「10年前と変わらない」が22.4%となっており、他の項目と比べ多くなっている。

(b) 男女別

男女による大きな差は見られず、ほぼ同じ傾向となっている

図表 8-2 男女共同参画社会の現状（10年前と比較して）（男女別）

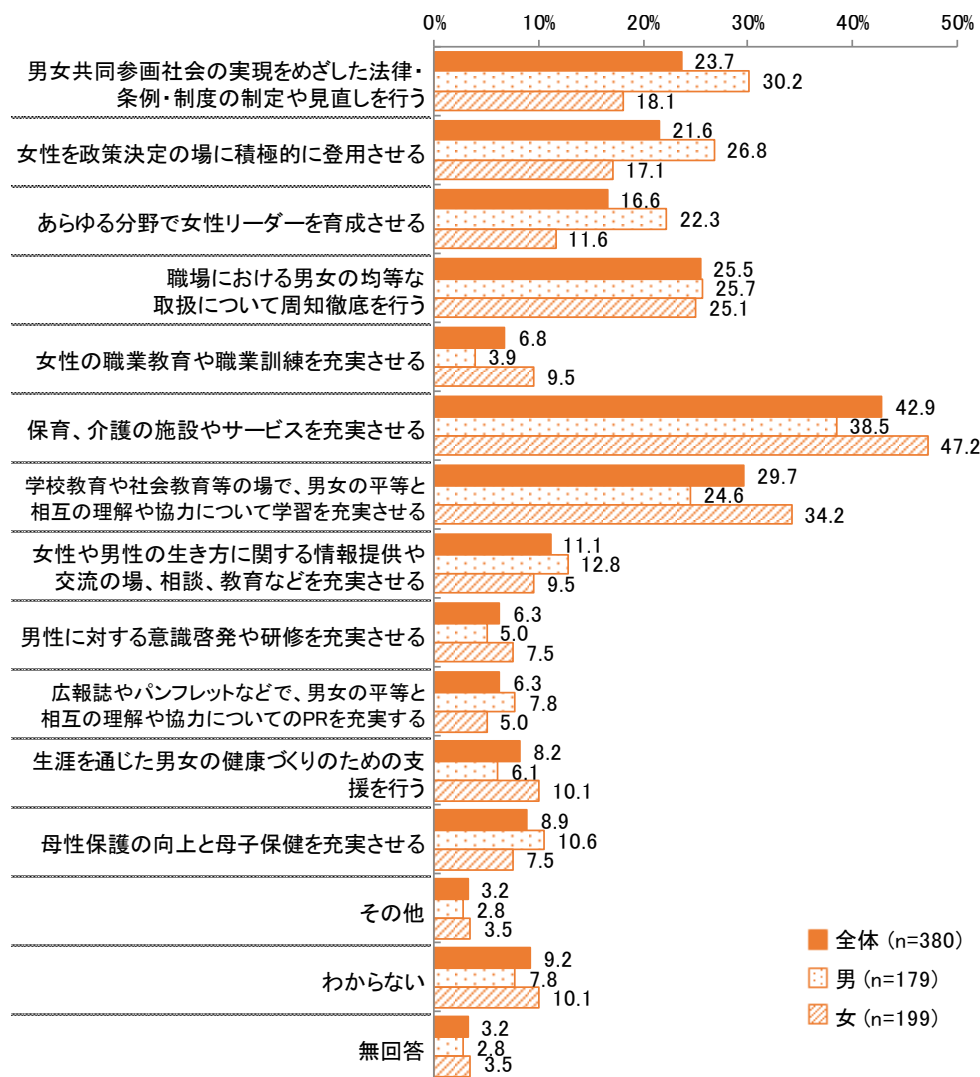


8-2 朝日町が力を入れていくべきこと

問 23. 男女共同参画を推進していくために、今後、町はどのようなことに力をいれていけばよいと思いますか。(〇は3つまで)

「保育、介護の施設やサービスを充実させる」が42.9%で最多

図表 8-3 朝日町が力を入れていくべきこと



- 「保育、介護の施設やサービスを充実させる」(42.9%)が最も多く、次いで「学校教育や社会教育等の場で、男女の平等と相互の理解や協力について学習を充実させる」(29.7%)、「職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底を行う」(25.5%)となっている。
- “男性”のほうが“女性”より上回っている項目は、「男女共同参画社会の実現をめざした法律・条例・制度の制定や見直しを行う」で 12.1 ポイント、「あらゆる分野で女性リーダーを育成させる」で 10.7 ポイントの差がある。
- “女性”のほうが“男性”より上回っている項目は、「学校教育や社会教育等の場で、男女の平等と相互の理解や協力について学習を充実させる」で 9.6 ポイント、「保育、介護の施設やサービスを充実させる」で 8.7 ポイントの差がある。